

(案)

こおりやま広域圏
連携中枢都市圏ビジョン

平成 3 1 年 3 月

郡山市

目次

- I こおりやま広域圏連携中枢都市圏ビジョンの概要
 - 1 策定の趣旨
 - 2 連携中枢都市圏の名称及び構成市町村
 - 3 ビジョンの期間

- II こおりやま広域圏の現状
 - 1 こおりやま広域圏の概要
 - (1) 圏域の概要
 - (2) 構成市町村の概要
 - 2 圏域の現在人口と将来推計人口
 - 3 本市への通勤通学割合
 - 4 経済産業の状況
 - 5 都市機能の集積状況

- III 圏域の将来像と目標
 - 1 こおりやま広域圏の将来像
 - 2 将来の人口目標

- IV 連携協約に基づき推進する具体的取組及び成果指標
 - 1 具体的取組
 - (1) 圏域全体の経済成長のけん引
 - (2) 高次の都市機能の集積・強化
 - (3) 圏域全体の生活関連機能サービスの向上
 - 2 成果指標（K P I）

I こおりやま広域圏連携中枢都市圏ビジョンの概要

1 策定の趣旨

我が国は、2014(平成26)年に地方自治法を改正(2014年11月1日施行)し、地方自治体間の柔軟な連携を可能とする連携協約の制度を導入し、将来に渡り地域経済を持続可能なものとする連携中枢都市圏の形成を推進しております。これを受け、同年の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、本制度を地域活力向上の重点政策と位置づけられております。

さらには、総務省の自治体戦略2040構想研究会(2018(平成30)年7月第二次報告)においても、2040年頃に迫り来る人口減少・超高齢社会など内政上の危機にバックキャストिंगの視点で対応し、圏域単位で対応が必須となる行政課題に取り組んでいく必要があるものと示されました。福島県の中央に位置し、都市と自然が調和した働きやすく暮らしやすい環境を目指し、多様かつ高度な産業や研究機関が集積された「経済県都」として発展してきた本圏域には、ICTの活用等によるプラットフォーム構築を一つの大きな柱として、地域経済や住民福祉の更なる発展を担う「e-経済県都」的機能を果たすことも使命となっております。

こうした背景のもと、本市においては、近隣市町村はもとより圏域内の研究・学術機関とともに、様々な分野で住民や情報、研究成果が行き交う「知の結節点」として、密接かつ相互補完的な関係が構築されております。

圏域の形成により、今後は、連携中枢都市として、各市町村それぞれの広域的・国際的連携等も視野に入れた、主体的なまちづくりの理念と課題をふまえた将来展望実現に向け相互に資するとともに、広域的に学び、働き、暮らし続けることができる圏域づくりを推進するため、以下の五つの基本的な考え方により、本圏域の発展を目指すことを決意し、ここに宣言します。し、本ビジョンを策定します。

- 1 災害発生時はもとより、平時においてもお互いの強みを「広め合う、高め合う、助け合う」関係を構築し、持続可能な圏域形成を目指す。
- 2 多様かつ高度な産業研究機能集積を生かし、圏域内の公・共・私の境界をこえた主体的な研究連携を促進するとともに、国際的な視野にも立った広域産業圏として更なる発展を目指す。
- 3 圏域の未来を担う若い世代、次の世代が十分に力を発揮できる機会と場を創出し、先人の知恵にも学びつつ、全世代参画型の将来展望と課題解決策を構想する。
- 4 本圏域の発展が、より広域な国や県全体の発展に寄与するよう、IoT、AI等も活用した先駆的かつモデル的な連携事業を推進する。
- 5 地方自治の本旨である、圏域内の各自治体による団体自治と住民自治との有機的連携の下、本宣言の理念ビジョンの実現に取り組む。

2 連携中枢都市圏の名称及び構成市町村

(1) 連携中枢都市圏名称

本連携中枢都市圏の名称は、こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）とする。

(2) 連携中枢都市圏の構成市町村

郡山市、須賀川市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、
玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町



3 ビジョンの期間

2019年度（平成31年度）から2023年度までの5年間とする。

II こおりやま広域圏の現状

1 こおりやま広域圏の概要

(1) 圏域の概要

こおりやま広域連携中枢都市圏（以下「こおりやま広域圏」という。）である福島県中央部に位置する15市町村は、人口が約59万人（平成27年度国勢調査）で福島県内の人口の約3割を占めており、面積が約2,968k㎡で福島県の約2割を占めている。圏域の北部は二本松市や福島市、北塩原村と接し、西部は会津若松市や磐梯町、下郷村、南部は矢吹町や白河市、西郷村、東部はいわき市や葛尾村、浪江町、大熊町、川内村と接している。

また、東北道を南北に貫く国道4号、東北自動車道、東北本線、東北新幹線と、日本海側と太平洋を結ぶ国道49号線、磐越自動車道、磐越西線、磐越東線、水郡線の結節点に位置し、古くから交通の要衝として栄えている。

中心市の郡山市の1月の平均気温は0.8℃、8月の平均気温は24.4℃となっており、年間降水量は1,163.2mmと比較的穏やかな内陸性の気候である。一方で、猪苗代町や圏域西部の山間地では内陸型の積雪寒冷地に属し、12月上旬から翌年3月までの積雪となる。

圏域は福島県中央部の郡山盆地に位置し、北部は磐梯山や安達太良山、吾妻山といった吾妻山系に接している。西部は猪苗代湖に接し、東部は阿武隈高地に属している。猪苗代湖や羽鳥湖、あぶくま洞など景勝地も多く、豊かな自然に恵まれた地域である。

(2) 構成市町村の概要

■郡山市

郡山市は、福島県の中央に位置し、東北地方で第3位の人口規模を誇る東北有数の拠点都市である。明治初期の「安積開拓」と「安積疏水」の開さくに始まり、昭和39年の「郡山地区新産業都市指定」、昭和40年の大同合併、平成9年の中核市への移行により、農業、商業、工業がバランス良く発展してきた。また、東京から新幹線で最速77分というアクセスの良さに加え、鉄道や東北・磐越両自動車道が縦横に交差するなど、交通の要衝となっている。

■須賀川市

須賀川市は、発祥250年を迎える国指定名勝「須賀川の牡丹園」、夏の風物詩「釈迦堂川花火大会」、日本三大火祭りの一つ「松明あかし」など、四季を通して華やかな彩りに包まれるまちである。また、ウルトラマンの生みの親である円谷英二監督と東京オリンピックのマラソン競技銅メダリストである円谷幸吉選手の「二人の円谷」を育んだまちでもある。さらに、東京や仙台などの都市圏とのアクセスに優れ、県内唯一の空の玄関口「福島空港」を有しており、福島県の高速度交通体系の重要な結節点となっている。

■田村市

阿武隈高原のほぼ中央に位置する田村市は、美しい青空と緑豊かな自然に恵まれ、平安時代の武将「坂上田村麻呂」の伝説が多く残る歴史と文化の薫る高原都市である。国内有数の鍾乳洞である「あぶくま洞」や「入水鍾乳洞」をはじめ、ハイキングスポットである「高柴山」の3万株のつつじなど、数多くある天然の造形美は訪れる人の心を魅了する。

■本宮市

本宮市は平成19年に本宮町と白沢村が合併し誕生した。福島県の中央に位置し、江戸時代に奥州街道の宿場町として栄えてきた歴史をもち、古くからの交通の要衝である。現在も東北自動車道と国道4号が南北に走り、東北・磐越自動車道が交差する郡山ジャンクションが近接する優れた立地条件から、製造業、流通業等の数多くの企業が立地する工業のまちとしての特性を有するとともに、阿武隈川流域での平坦で肥沃な土地条件を生かした農業が基幹産業の一つとなっている。

■大玉村

大玉村は、日本百名山のひとつ安達太良山の麓に位置し、自然環境に恵まれ平成26年には自然環境と文化面が評価され、『日本で最も美しい村』連合にも加盟した。特産品の米は、献上米として皇室にも献上されるほどの米どころとして名を馳せている。

また、平成27年には、世界的にも有名なマチュピチュ村と世界で初めて友好都市締結するなど、農業分野だけでなく世界に目を向けた取組にも力を入れている。

■鏡石町

鏡石町は、福島県「中通り」の中央南部に位置し、東北本線・東北自動車道・福島空港が隣接し、交通アクセスが良くコンパクトなまちである。穏やかな気候風土と豊かな水資源、肥沃で平坦な耕地が広がる地の利を活かし、水稻や野菜、果樹、畜産が盛んである。日本の近代酪農発祥の地とされ、唱歌「牧場の朝」のモデルとして知られる「岩瀬牧場」をはじめ、豊かな自然環境を活かしたスポーツ施設やレクリエーション施設が点在し、さわやかな田園都市を形成している。

■天栄村

四季折々にさまざまな彩りを見せる天栄村の自然。ふるさとに降る恵みの雨は、村のほぼ中央部にある分水嶺「鳳坂峠」を境に、西は日本海、東は太平洋へと山々の緑を潤しながらすすむ。この急峻な鳳坂峠が天栄村の自然を大きく二分している。西部地区は、大白森山・小白森山・二岐山などの標高 1500m以上の急峻な山岳地帯が続き、二岐川・鶴沼川の溪谷、羽鳥湖周辺の高原など、変化に富んだ景観が特徴である。この地域の大半が大川羽鳥県立自然公園に指定され、村のシンボルである羽鳥湖を中心にさまざまな観光ポイントが広がっている。東部地区は、釈迦堂川と竜田川の清冽な流れによって肥沃な耕地がひらけた農村地帯となっており、穏やかな気候の中、人と自然が豊かに共生している。

■猪苗代町

猪苗代町は福島県のほぼ中央に位置し、北に秀峰磐梯山、南に国内で 4 番目に広い猪苗代湖があり、特に猪苗代湖は澄んだ湖水の美しさから、別名「天鏡湖」と呼ばれている。これら山と湖が織りなす雄大で美しい自然豊かな町である。この自然環境に加えて、千円札にも描かれている猪苗代が生んだ世界の偉人「野口英世博士」の生家記念館や、有栖川宮威仁親王が明治 41 年に建設した別荘で国の重要文化財に指定されている「天鏡閣」など、多くの文化施設が点在する県下有数の観光地となっている。

■石川町

石川町は、福島県の中通り南部、阿武隈高地の西側に位置し、総面積は 115.71 km²で、阿武隈川流域の平坦地と阿武隈高地に連なる山間地から形成され、阿武隈の強い台地と緑に包まれた自然豊かな地域である。春には 2,000 本の桜が咲き誇り、町中を流れる今出川、北須川沿いの桜並木は「さくら谷」と称されるような見事な景観を呈する。

また、高速交通の要と言える福島空港や東北新幹線、東北・磐越自動車道、阿武隈高原道路との利便性に優れた開発ポテンシャルの高い地域である。

■玉川村

玉川村は、福島県の阿武隈山系中南部に位置し、都市近郊の良好な立地のほか、福島県の空の玄関口である福島空港の所在地になっており、東西に高規格道路「あぶくま高原道路」が走る交通の利便性に優れた村である。村の基幹産業は農業であり、トマトやキュウリ・さるなし等の農産物が栽培される農村地域である。

また、須賀川市との境には阿武隈川が流れ、松尾芭蕉が俳句を詠んだという「乙字ヶ滝」があり、東部地区には「東野の清流」がある自然豊かな土地柄である。

■平田村

平田村は、福島県の南東部、石川郡の北東部に位置し、東はいわき市、南は石川町・古殿町、西は須賀川市、玉川村、北は郡山市、小野町に接している。また、阿武隈山系の中に位置し、周囲には蓬田岳（952.2m）をはじめとし、芝山（819.2m）、十石山（718.1m）などがそびえ、これら山々からの流れが北須川、平田川などの清らかな溪流を形成する自然豊かな村である。

■浅川町

浅川町は福島県中通りの南部に位置し、阿武隈山系の雄大な自然に囲まれた緑豊かな町である。町の主要産業は農業であり西部を中心に田園地帯が広がっている。県内最古の歴史と伝統を誇る花火大会が有名で、毎年8月16日には県内外から多くの見物客が訪れる。また、世界的なガン研究者「吉田富三博士」の故郷でもあり、吉田富三記念館ではその偉業を垣間見ることできる。

■古殿町

古殿町は、昭和30年3月31日宮本村と竹貫村が合併して古殿村が誕生し、同32年4月1日町となり、さらに平成6年4月1日、東白川郡から石川郡古殿町となった。面積163.29k㎡のうち約80%を山林が占める自然あふれる町である。

また、古殿町を代表する伝統の神事として、800有余年の歴史がある、古殿八幡神社の笠懸・流鏝馬がある。県の重要無形民俗文化財にも指定され、毎年10月第2日曜日とその前日に古殿町八幡神社にて奉納される。

■三春町

三春町は、福島県のほぼ中央で郡山市の東側に隣接し、阿武隈山系の西裾に位置する。城下町の名残ある町並みや、多くの神社仏閣が存立しており、「三春駒」などの伝統工芸品や幕府献上品であった「三春素麺」などの特産品が数多くあり、伝統・文化が息づいた町である。

また、桜の町としても有名であり、国指定天然記念物で日本三大桜のひとつである「三春滝桜」を始め、約10,000本の桜の木があり、春には多くの観光客が訪れる。

■小野町

小野町は、磐越自動車道小野インターチェンジや福島空港アクセス道路「あぶくま高原道路」により阿武隈地域の交通の要衝となっている。春には夏井川の清らかな流れに沿い「夏井千本桜」が咲き誇り、県立自然公園に指定されている高柴山山頂では約3万本のヤマツツジが登山者を和ませる。

また、国指定天然記念物の樹齢1200年の「翁スギ・媼スギ」、町指定重要文化財に指定されている「東堂山鐘楼」は歴史の奥深さを感じさせてくれる。

2 圏域の現在人口と将来推計人口

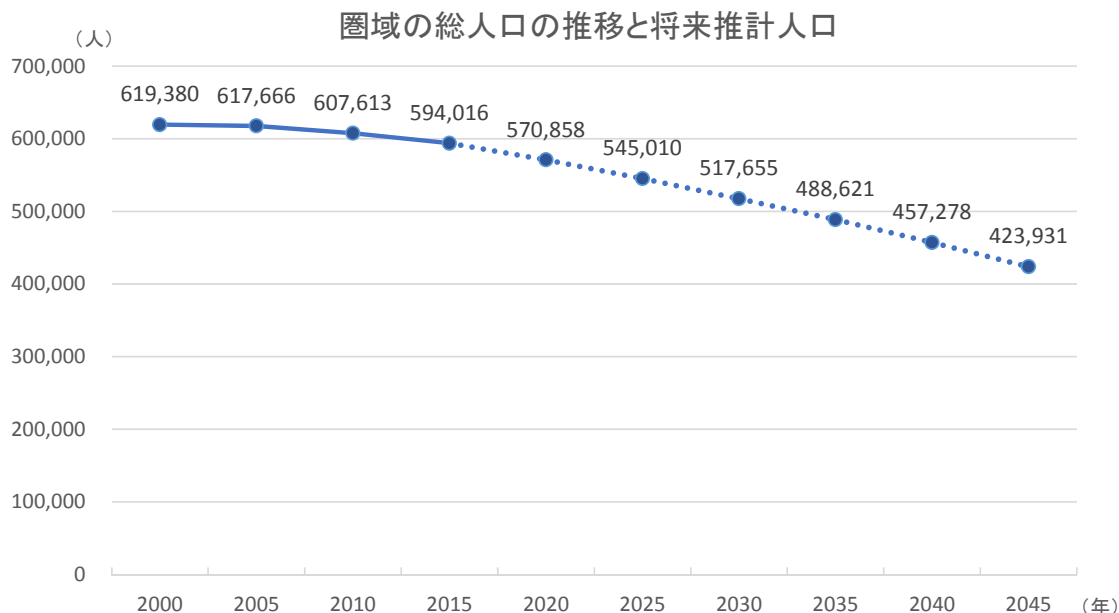
(1) 圏域の総人口の推移と将来推計人口

圏域の人口は2000年をピークに減少に転じており、2015年には594,016人となっている。

この傾向は今後も続くことが予想され、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)に準拠した推計によれば、2045年には423,931人(2015年比28.6%減)との結果が出されている。

(単位:人)

自治体名	現在人口(国勢調査)				将来推計人口					
	2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
郡山市	334,824	338,834	338,712	335,444	324,657	311,990	297,942	282,429	265,394	247,204
須賀川市	79,409	80,364	79,267	77,441	74,612	71,389	67,953	64,300	60,269	55,960
田村市	45,052	43,253	40,422	38,503	36,242	33,936	31,699	29,492	27,256	24,876
本宮市	31,541	31,367	31,489	30,924	29,690	28,320	26,915	25,459	23,884	22,199
大玉村	8,407	8,464	8,574	8,679	8,329	7,958	7,570	7,158	6,710	6,223
鏡石町	12,743	12,746	12,815	12,486	12,067	11,574	11,042	10,462	9,840	9,178
天栄村	6,889	6,486	6,291	5,611	5,314	4,986	4,669	4,351	4,003	3,632
猪苗代町	18,178	17,009	15,805	15,037	14,036	13,047	12,098	11,193	10,290	9,376
石川町	19,914	18,921	17,775	15,880	14,919	13,937	12,973	12,021	11,035	10,031
玉川村	7,680	7,602	7,231	6,777	6,468	6,144	5,819	5,492	5,133	4,737
平田村	7,910	7,538	6,921	6,505	6,125	5,746	5,374	5,017	4,646	4,238
浅川町	7,484	7,272	6,888	6,577	6,234	5,864	5,498	5,137	4,769	4,388
古殿町	6,818	6,511	6,030	5,373	4,989	4,607	4,252	3,930	3,609	3,264
三春町	19,976	19,194	18,191	18,304	17,324	16,301	15,266	14,188	13,054	11,883
小野町	12,555	12,105	11,202	10,475	9,852	9,211	8,585	7,992	7,386	6,742
合計	619,380	617,666	607,613	594,016	570,858	545,010	517,655	488,621	457,278	423,931



出典: 総務省「国勢調査(各年次)」

※合併市町村は構成する旧市町村の数字を合算

※将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2018年3月)」の福島県推計値準拠により郡山市が独自に推計したものであり、各市町村が策定した総合計画、人口ビジョンにおける将来展望人口等の推計値とは異なる

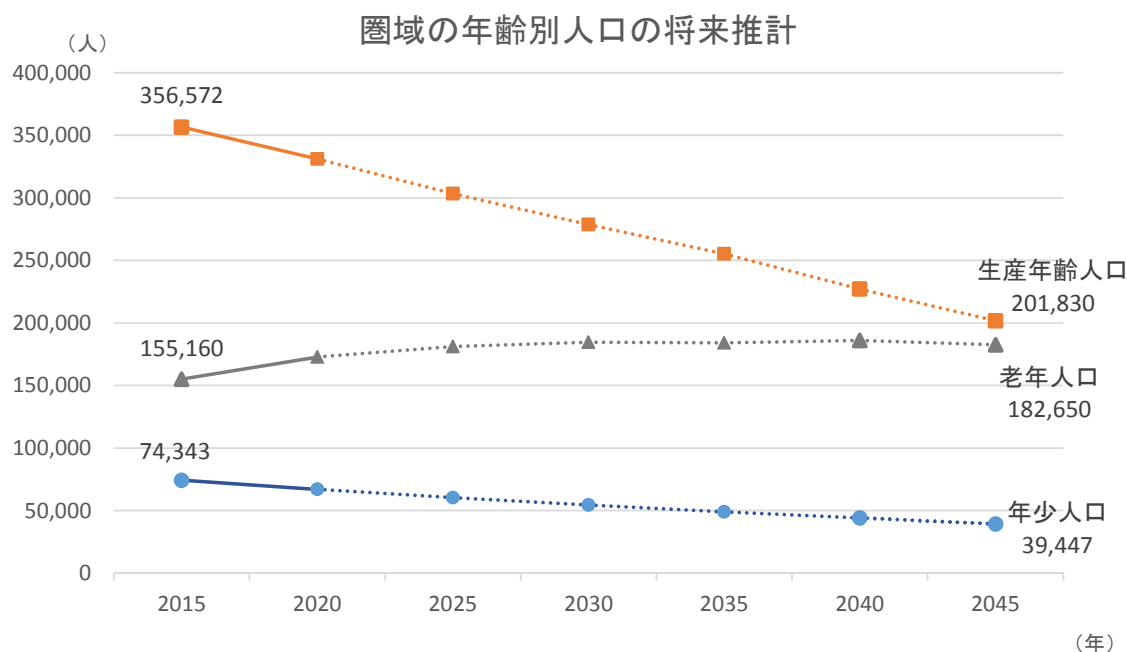
(2) 圏域の年齢別人口の将来推計

社人研準拠による将来推計人口を年齢3区分別に見ると、年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15歳～64歳）は年々減少し、2045年には年少人口が39,447人（2015年比46.9%減）、生産年齢人口は201,830人（2015年比43.4%減）となる見込み。

一方、老年人口は徐々に増加し、2040年にピークである185,921人（2015年比19.8%増）に達した後、減少に転じる見込み。

(単位:人)

区分	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
年少人口 (15歳未満)	74,343	67,002	60,486	54,550	48,960	44,131	39,447
生産年齢人口 (15～64歳)	356,572	331,066	303,364	278,573	255,393	227,229	201,830
老年人口 (65歳以上)	155,160	172,786	181,159	184,532	184,273	185,921	182,650



出典：総務省「国勢調査（2015年）」

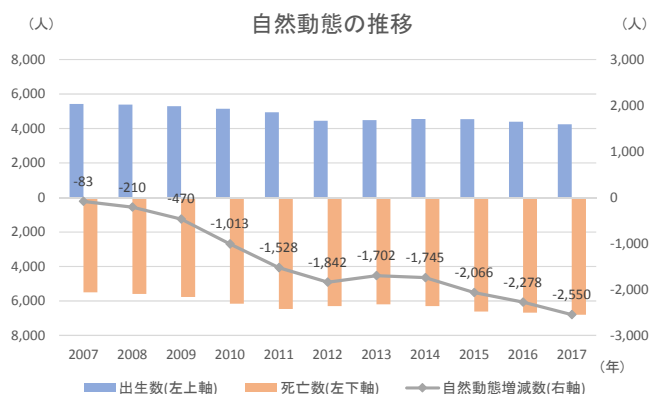
※将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年3月）」の福島県推計値準拠により郡山市が独自に推計したものであり、各市町村が策定した総合計画、人口ビジョンにおける将来展望人口等の推計値とは異なる

(3) 圏域の人口動態

① 自然動態の推移

圏域の自然動態を見ると、2007年には死亡数が出生数をわずかに上回る程度であったが、少子高齢化の進行により自然減が増加。2011年の震災後に一時、出生数増加、死亡数減少となったものの、再び震災前のトレンドに戻り、自然減も拡大している。

区分	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
出生数	5,418	5,384	5,301	5,149	4,934	4,457	4,493	4,560	4,550	4,398	4,245
死亡数	5,501	5,594	5,771	6,162	6,462	6,299	6,195	6,305	6,616	6,676	6,795
自然動態増減数	-83	-210	-470	-1,013	-1,528	-1,842	-1,702	-1,745	-2,066	-2,278	-2,550

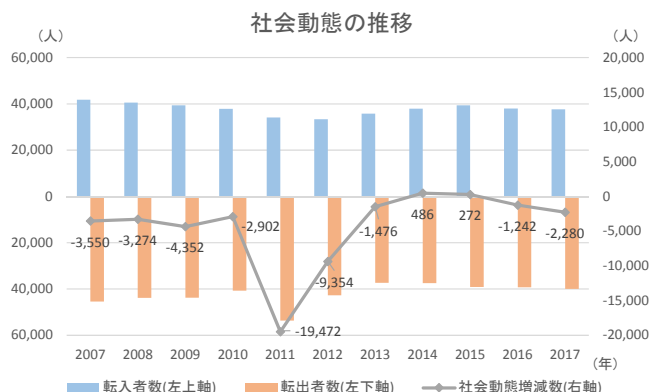


出典：福島県統計課「福島県現住人口調査年報（各年次）」

② 社会動態の推移

圏域の社会動態を見ると、震災前から既に転出超過であったが、2011年の震災により転出が19,472人と大幅に超過。その後の復旧・復興の動きに合わせて徐々に転入超過となったものの、2016年から再び転出超過に転じている。

区分	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
転入者数	5,418	5,384	5,301	5,149	4,934	4,457	4,493	4,560	4,550	4,398	4,245
転出者数	5,501	5,594	5,771	6,162	6,462	6,299	6,195	6,305	6,616	6,676	6,795
社会動態増減数	-3,550	-3,274	-4,352	-2,902	-19,472	-9,354	-1,476	486	272	-1,242	-2,280



出典：福島県統計課「福島県現住人口調査年報（各年次）」

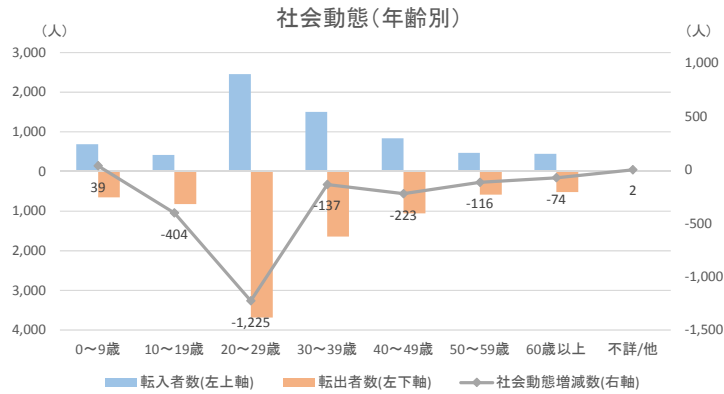
※転入、転出者数は統計データの制約上、県域内各市町村の転入、転出数を単純に合計したものであり、圏域内市町村から圏域内他市町村への転入、転出数も含む。

③ 圏域外からの転入転出状況（年齢別）

年齢別（10歳ごと）の社会動態を見ると、「10～19歳」、「20～29歳」といった若年層で大幅な転出超過となっており、進学や就職を契機とした転出と推察される。

(単位:人)

区分	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳/他	総数
転入者数	690	416	2,456	1,504	837	470	445	5	6,823
転出者数	651	820	3,681	1,641	1,060	586	519	3	8,961
社会動態増減数	39	-404	-1,225	-137	-223	-116	-74	2	-2,138



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2017年）」

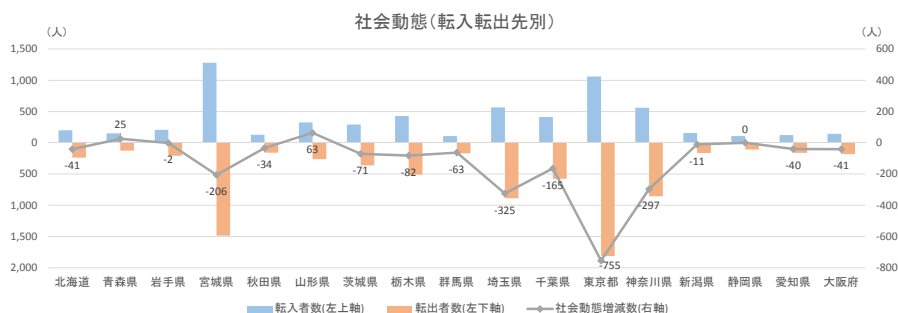
④ 圏域外からの転入転出状況（転入転出先別）

転入先または転出先が100人を超える県を見た場合、東京都への転出が1,814人、転出超過数も755人と最多。また、埼玉県、千葉県、神奈川県をはじめとした首都圏への転出も多い。

近県では宮城県への転出が1,487人、転出超過数も206人となっており、転入超過は青森県の25人、秋田県の63人のみである。

(単位:人)

区分	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	静岡県	愛知県	大阪府
転入者数	197	151	206	1,281	127	324	291	427	109	564	412	1,059	559	156	107	123	142
転出者数	238	126	208	1,487	161	261	362	509	172	889	577	1,814	856	167	107	163	183
社会動態増減数	-41	25	-2	-206	-34	63	-71	-82	-63	-325	-165	-755	-297	-11	0	-40	-41



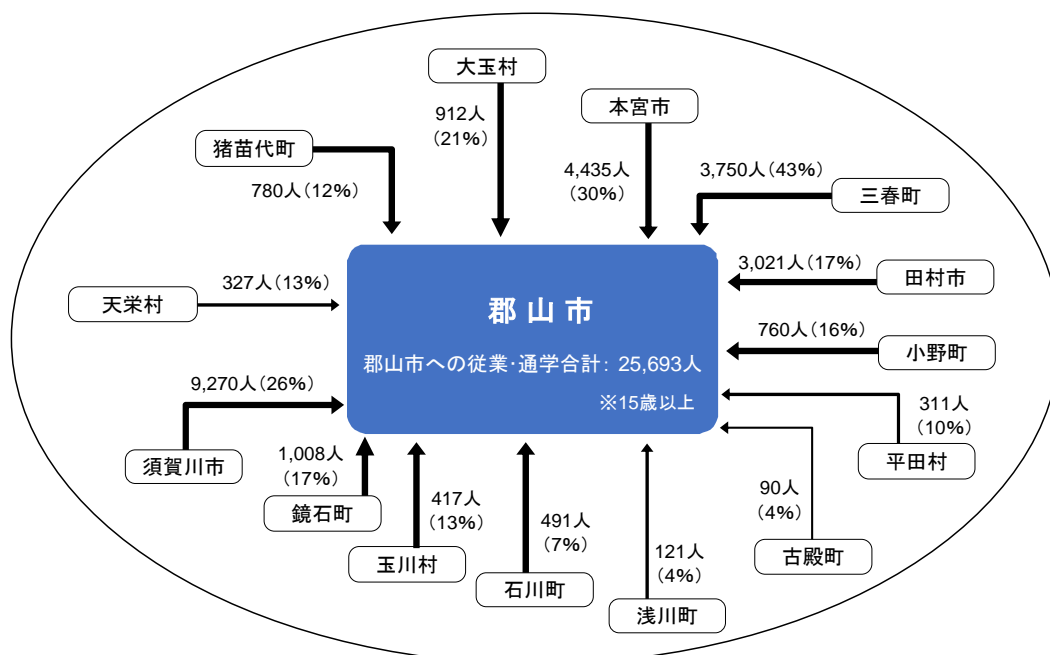
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2017年）」
 ※転入転出先が100人を超える県を抽出

3 本市への通勤通学割合

広域圏の中心市である郡山市への通勤通学割合を見ると、最も高いのが三春町の0.43であり、以降、本宮市が0.30、須賀川市が0.26となっている。国が示す「連携中枢都市圏構成推進要綱」で規定する、経済的結びつきが強いとされる通勤通学割合0.1以上を超える市町村は11市町村であり、0.1未満は石川町、浅川町、古殿町である。(単位：人)

区分	A 当地に常住する就業者・通学者総数	B うち自宅で従業等	C 郡山市へ従業・通学	郡山市への通勤通学割合 C / (A-B)
	須賀川市	42,204	5,888	9,270
田村市	21,670	3,866	3,021	0.17
本宮市	16,787	1,874	4,435	0.30
大玉村	4,977	735	912	0.21
鏡石町	6,866	909	1,008	0.17
天栄村	3,153	598	327	0.13
猪苗代町	8,144	1,541	780	0.12
石川町	8,486	1,546	491	0.07
玉川村	4,058	769	417	0.13
平田村	3,754	776	311	0.10
浅川町	3,649	619	121	0.04
古殿町	2,987	628	90	0.04
三春町	10,021	1,272	3,750	0.43
小野町	5,983	1,177	760	0.16

出典：総務省「国勢調査(平成27年)」

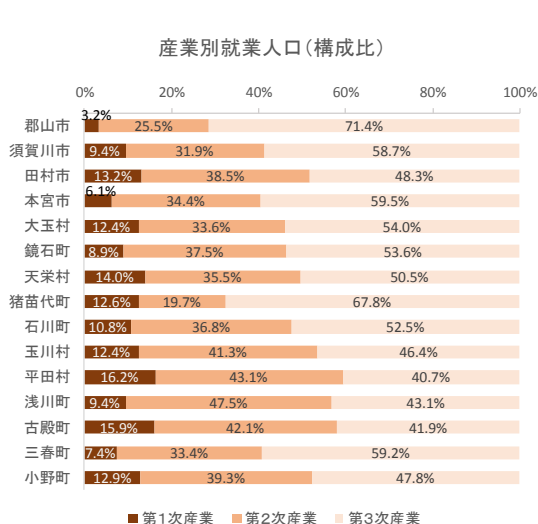


4 経済産業の状況

(1) 産業別就業人口

圏域の産業別就業人口を見ると、第3次産業への就業者数が172,764人と全体の63.5%を占めて、第2次産業は81,258人(29.9%)、第3次産業は17,910人(6.6%)である。

市町村別では、第1次産業は平田村、古殿町、第2次産業は玉川村、平田村、浅川町、古殿町、第3次産業は郡山市、猪苗代町が他市町村と比較して高い構成比を示している。



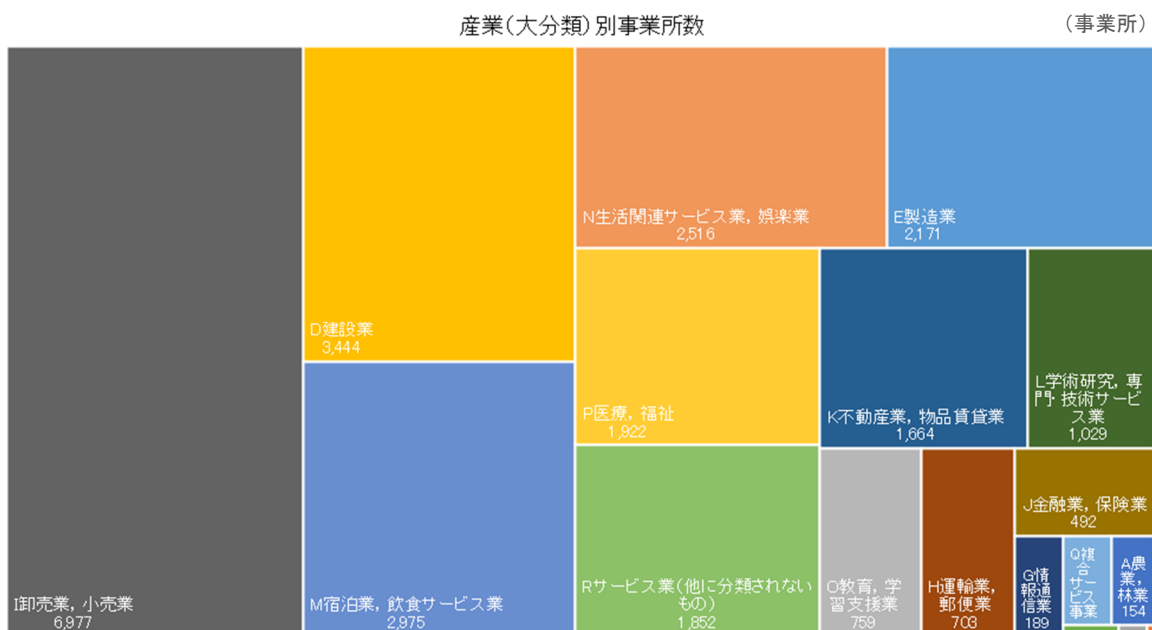
(単位:人)

区分	第1次産業	第2次産業	第3次産業
郡山市	4,550	36,734	102,817
須賀川市	3,472	11,813	21,717
田村市	2,616	7,659	9,603
本宮市	920	5,180	8,952
大玉村	566	1,537	2,469
鏡石町	552	2,321	3,318
天栄村	403	1,018	1,450
猪苗代町	923	1,446	4,984
石川町	824	2,816	4,021
玉川村	424	1,416	1,592
平田村	548	1,464	1,381
浅川町	315	1,585	1,437
古殿町	440	1,164	1,158
三春町	658	2,981	5,284
小野町	699	2,124	2,581
圏域計	17,910	81,258	172,764

出典：総務省「国勢調査」(2015年)」

(2) 産業(大分類)別事業所数

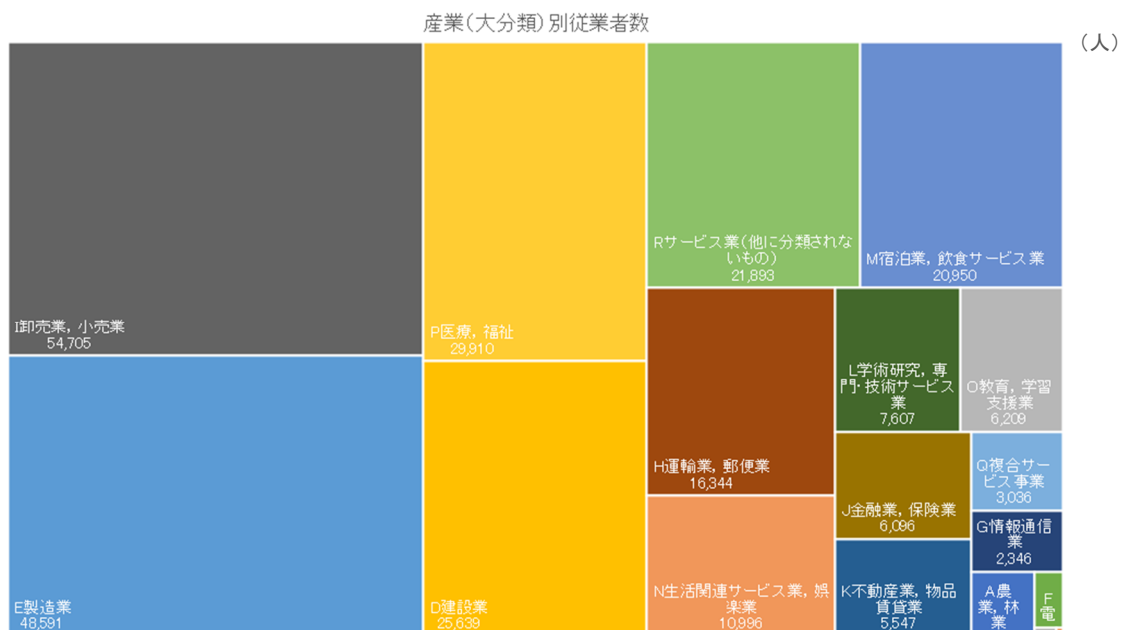
圏域の事業所数を産業(大分類)別で見ると、多いのは「卸売業、小売業(6,977)」、「建設業(3,444)」、「宿泊業、飲食サービス業(2,975)」であり、これら産業で約半数を占めている。また、製造業は2,171事業所にとどまっている。



出典：総務省「2016年 経済センサス-活動調査 事業所に関する集計 産業横断の集計」

(3) 産業（大分類）別従業者数

圏域の従業員数を産業（大分類）別に見ると、多いのは「卸売業、小売業(54,705)」、「製造業(48,591)」、「医療、福祉(29,910)」、「建設業(25,639)」であり、これら産業が地域雇用の主要な受け皿になっているといえる。



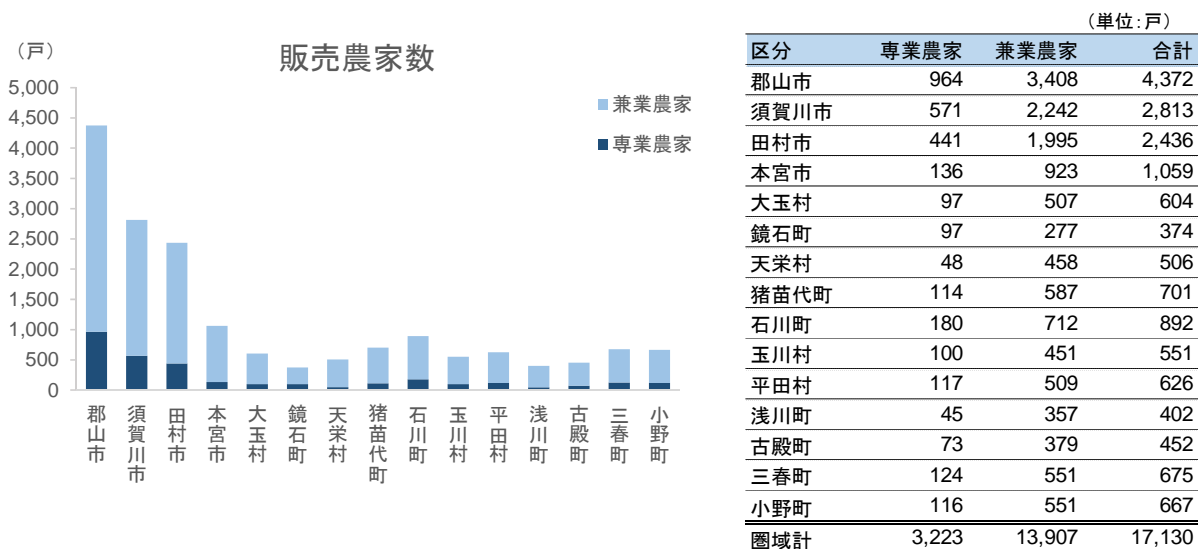
出典：総務省「2016年 経済センサス-活動調査 事業所に関する集計 産業横断的集計」

(4) 農業

① 販売農家数

圏域の販売農家数は、郡山市、須賀川市、田村市で多い。また、販売農家数に対する専業農家数は郡山市、須賀川市、鏡石町で多く、兼業農家数は本宮市、天栄村、浅川町で多い。

なお、全ての市町村において約8割が兼業農家である。



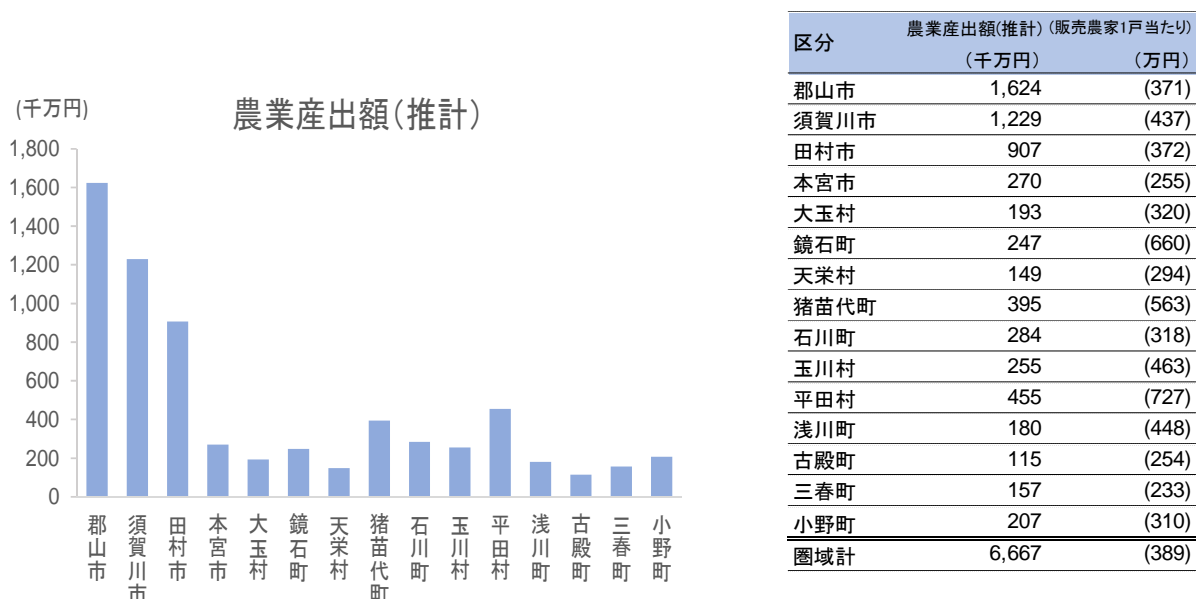
出典：福島県統計課「2015年 農林業センサス」

※販売農家：経営耕地面積 30ha 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家をいう

② 農業産出額（推計）

農業産出額（推計）は、郡山市、須賀川市、田村市、平田村、猪苗代で高い。

また、販売農家数1戸当たりの算出額は、平田村、鏡石町、猪苗代町で高い数値を示している。



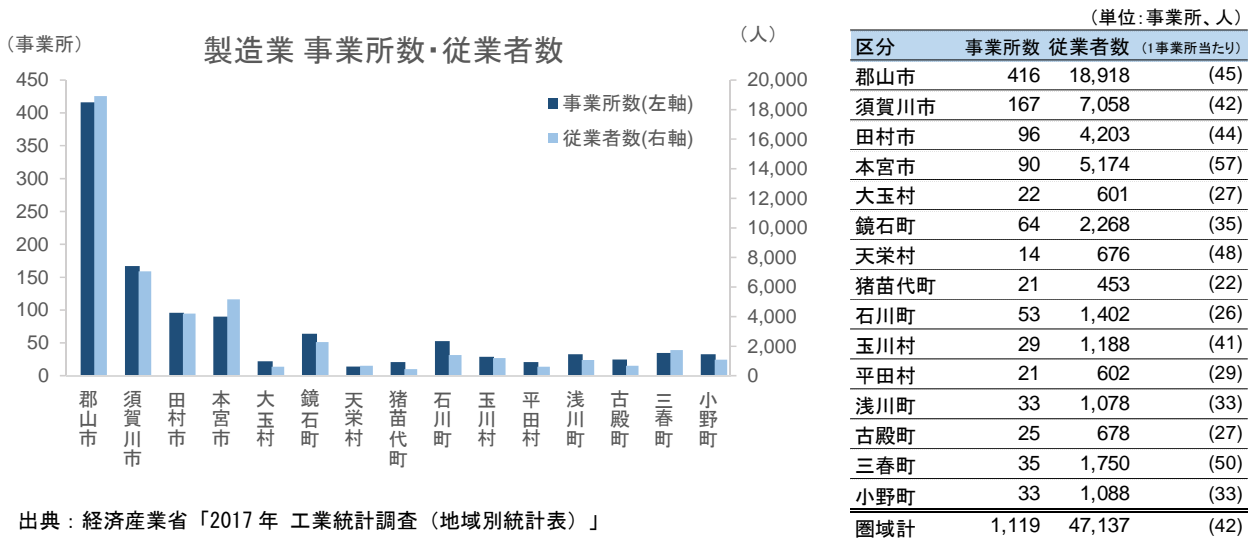
出典：農林水産省「2016年 市町村別農業産出額（推計）」

(5) 製造業

① 事業所数・従業者数

圏域の製造業における事業所数、従業者数は、郡山市、須賀川市、田村市、本宮市で多い。

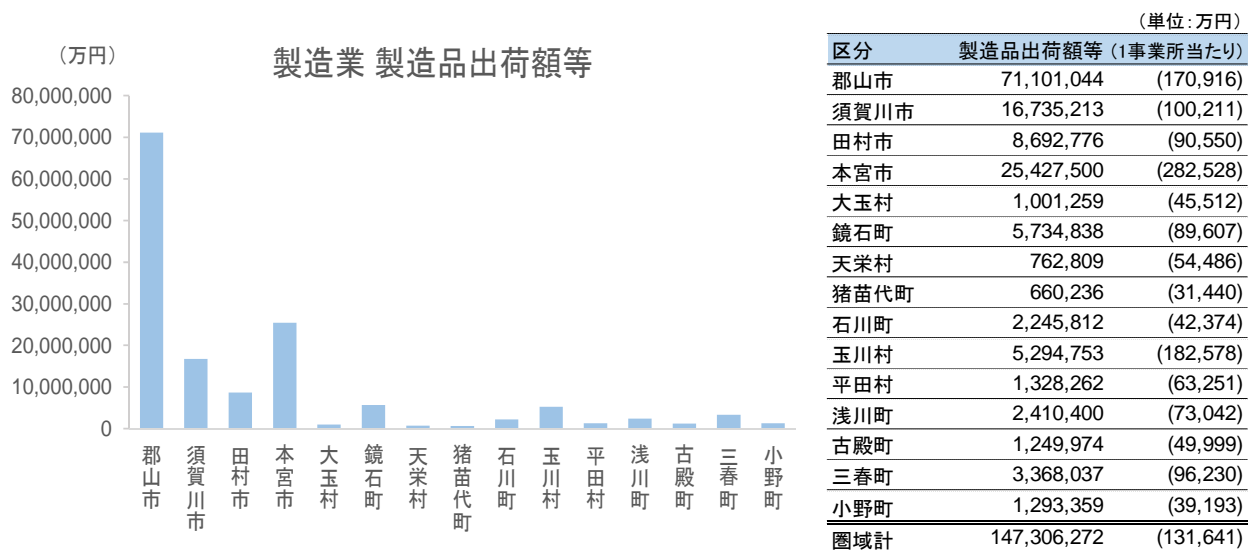
一方、1事業所当たりの従業者数は、本宮市、三春町で高い数値を示しており、比較的規模の大きい事業所数が立地していると推察される。



② 製造品出荷額等

製造品出荷額等は、郡山市、本宮市、須賀川市、田村市、鏡石町で多い。

また、1事業所当たりの製造品出荷額等は、本宮市が非常に多く、以下、玉川村、郡山市、須賀川市が続いている。

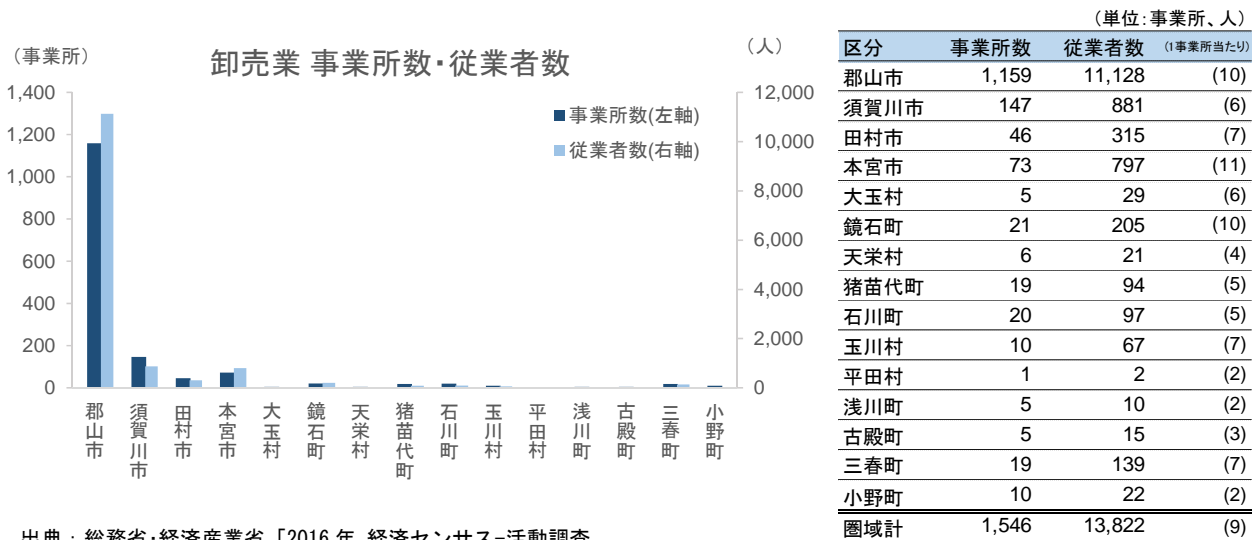


(6) 卸売業

① 事業所数・従業者数

圏域の卸売業における事業所数、従業者数は、郡山市で突出しており、圏域全体の事業所数の75%、従業者数の80%を占めている。

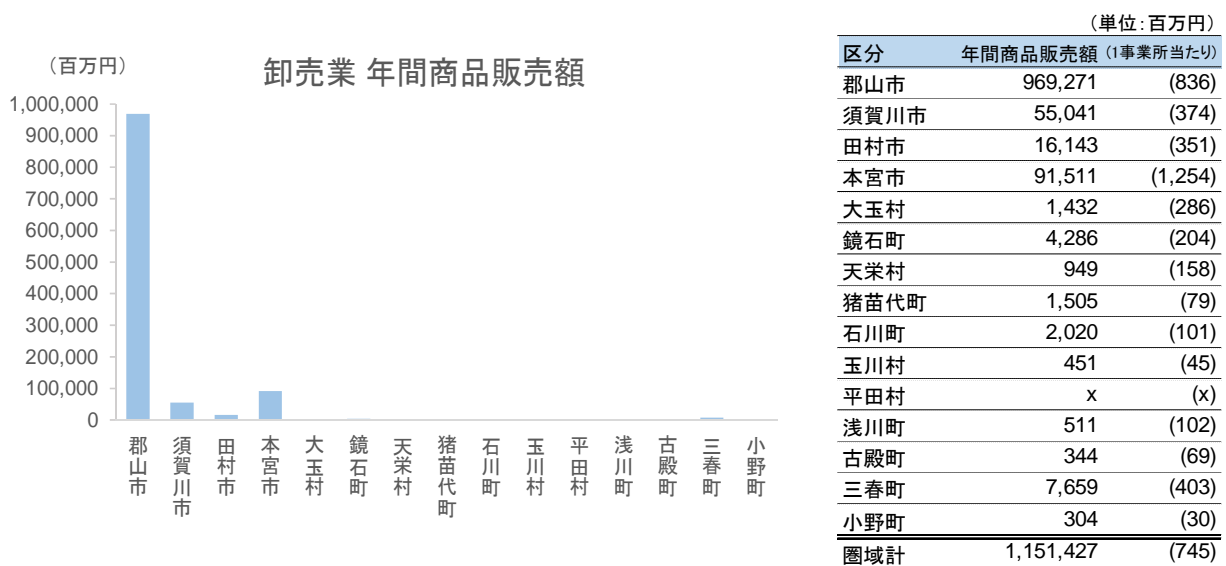
一方、1事業所当たりの従業者数は、本宮市、郡山市、鏡石町で比較的高い数値を示している。



② 年間商品販売額

年間商品販売額は、事業所数が多い郡山市が高い数値を示している。

また、1事業所当たりの年間商品販売額は、本宮市が郡山市よりも多い状況にある。

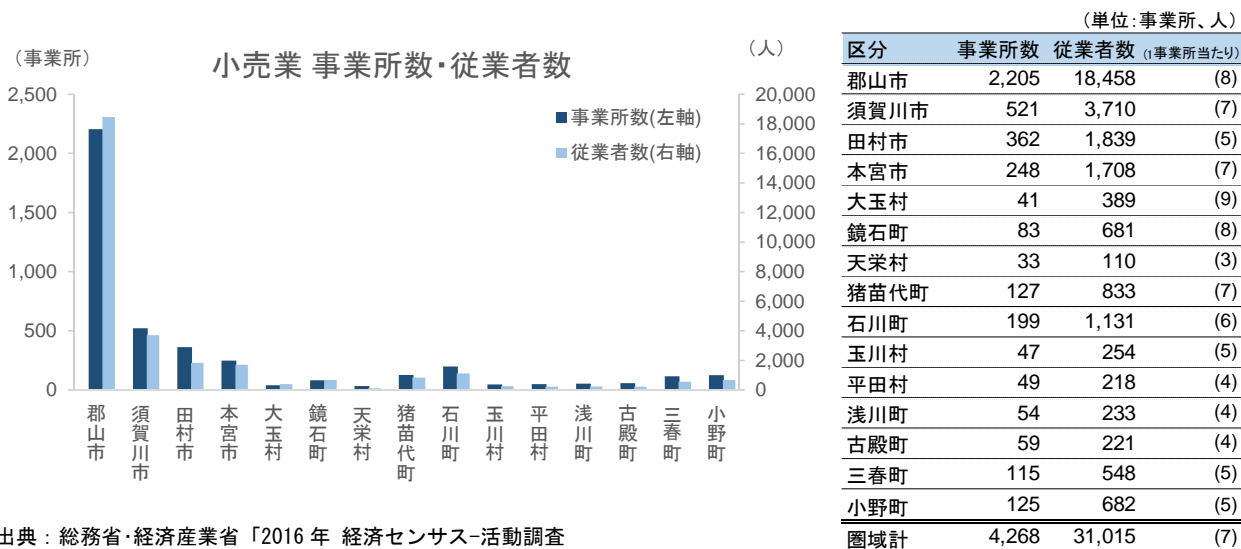


(7) 小売業

① 事業所数・従業者数

圏域の小売業における事業所数、従業者数は、卸売業同様、郡山市が非常に多く、圏域全体の事業所数の52%、従業者数の60%を占めている。

また、1事業所当たりの従業者数は、全ての市町村において10名未満となっており、小規模な事業者が多数を占めている状況にある。

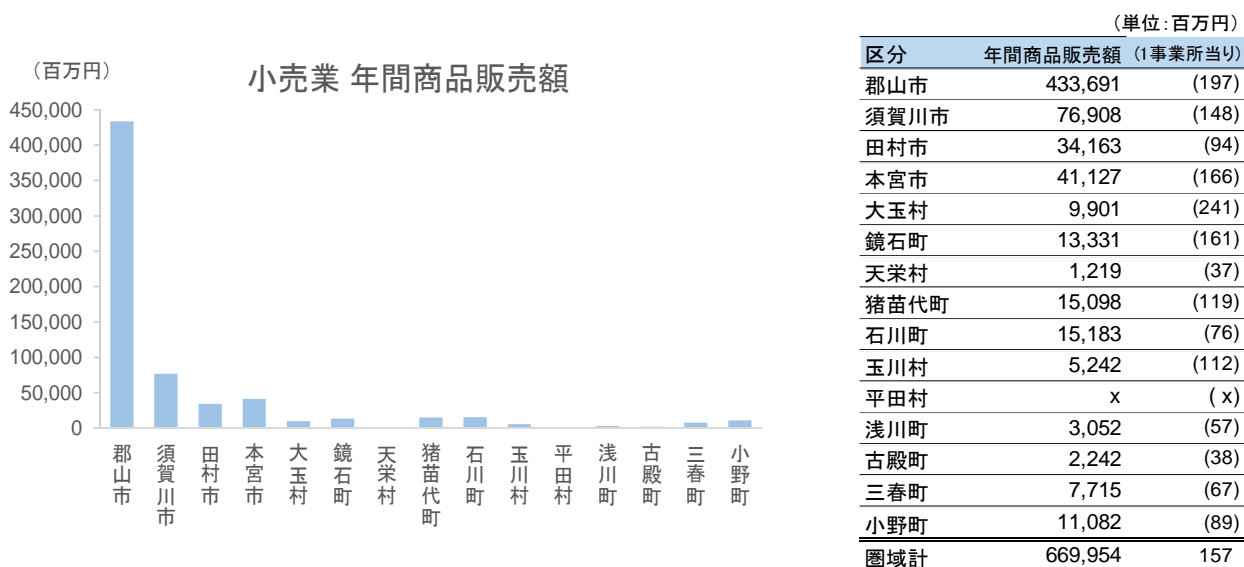


出典：総務省・経済産業省「2016年 経済センサス-活動調査
卸売業、小売業 産業編（市区町村表）」

② 年間商品販売額

年間商品販売額は、事業所数が多い郡山市で突出している。

また、1事業所当たりの年間商品販売額は、大玉村が郡山市よりも多い状況にある。



出典：総務省・経済産業省「2016年 経済センサス-活動調査
卸売業、小売業 産業編（市区町村表）」

※平田村の「x」は集計対象少数のため
秘匿されている

(8) 産業項目別県内シェア

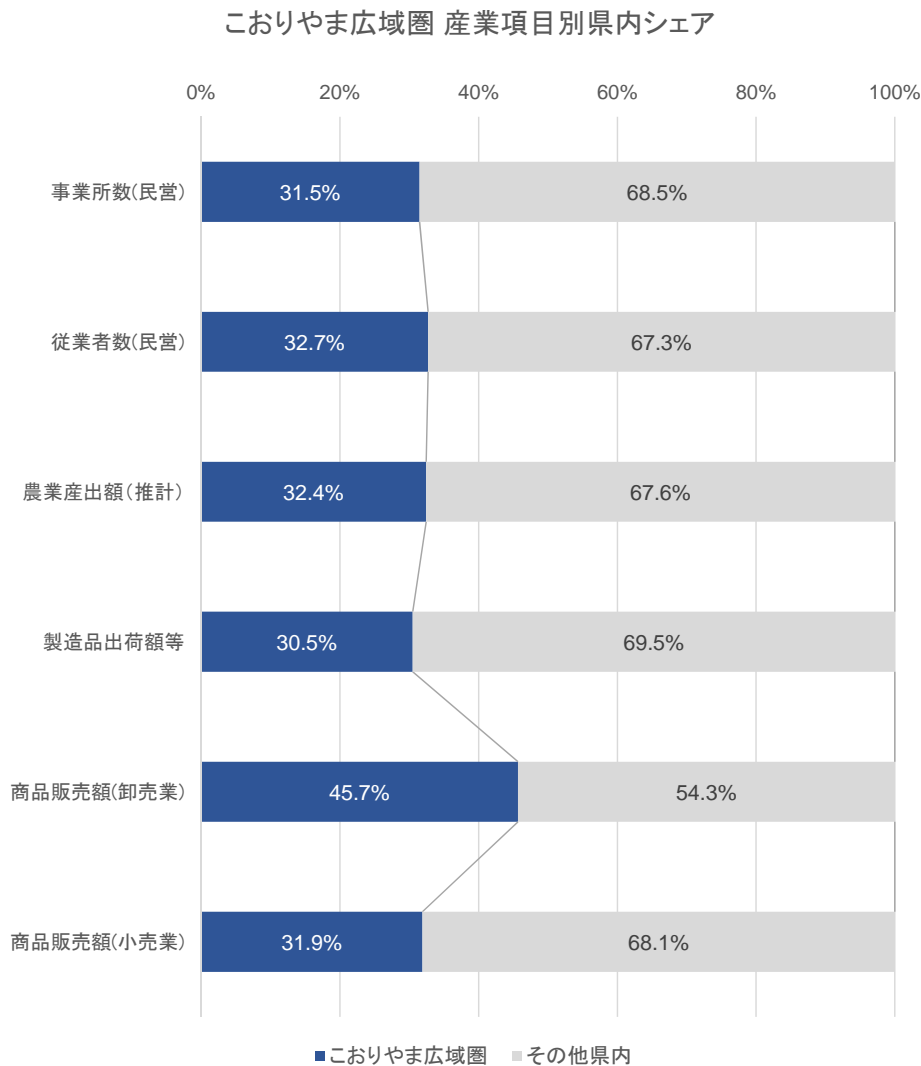
これまで現状分析を行った産業分野の各項目について、こおりやま広域圏の県内シェアは次のとおり。

事業所数、従業者は、それぞれ 31.5%、32.7%となっており、圏域の人口同様、県内の約3割を占めている。

農業分野の指標である農業産出額（推計）は 32.4%となっており、農業は圏域の基幹産業のひとつであるといえる。

製造業の指標である製造品出荷額等は 30.5%と他の指標と比較して若干低いが、それでも大規模な製造業が集積するいわき市（18.9%）を大きく超えるシェアを占めている。

小売業の指標である商品販売額についても3割を超える数値を示しており、特に卸売業は 45.7%と非常に高いシェアを占めるなど、アクセス性の良さを活かしたスムーズな商品流通を担う事業所が集積しているといえる。



出典：総務省「2016年 経済センサス-活動調査」、福島県統計課「2015年 農林業センサス」、農林水産省「2016年 市町村別農業産出額(推計)」、経済産業省「2017年 工業統計調査」、総務省・経済産業省「2017年 経済センサス-活動調査」

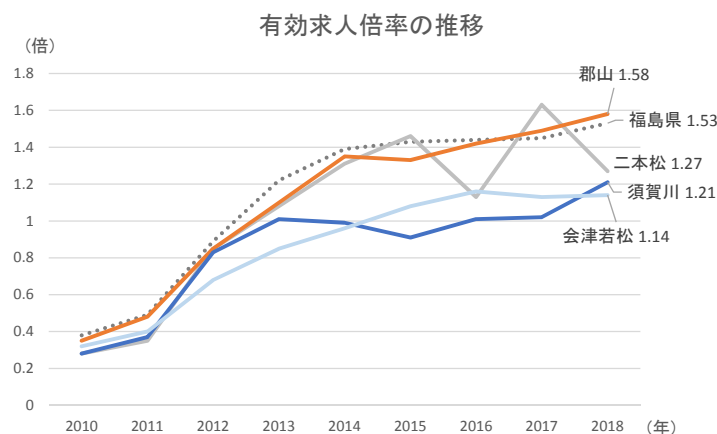
(9) 有効求人倍率の推移

福島県、及び圏域内市町村を管轄するハローワーク別に有効求人倍率を見ると、震災前は全ての地区で1倍を大きく下回る0.3倍程度であったが、2011年の震災直後からの復興需要増により急激に上昇。2013年には会津若松地区を除く全ての地区で1倍を超えている。

その後、2015年頃から復興需要のピークアウトを迎え、有効求人倍率の上昇傾向は緩やかになるものの、それでも人手不足の影響から、引き続き上昇傾向にある。特に郡山地区については、2018年4月には1.58倍と高い数値を示している。

(単位:倍)

区分	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
福島県	0.38	0.49	0.89	1.22	1.39	1.43	1.44	1.45	1.53
二本松	0.28	0.35	0.85	1.08	1.31	1.46	1.13	1.63	1.27
郡山	0.35	0.48	0.85	1.10	1.35	1.33	1.42	1.49	1.58
須賀川	0.28	0.37	0.83	1.01	0.99	0.91	1.01	1.02	1.21
会津若松	0.32	0.40	0.68	0.85	0.96	1.08	1.16	1.13	1.14



出典：福島労働局「有効求人倍率の推移（各年4月）」

【管轄区域】

二本松 二本松市、本宮市、安達郡（大玉村）
 郡山 郡山市、田村市、田村郡（三春町、小野町）
 須賀川 須賀川市、岩瀬郡（鏡石町、天栄村）、石川郡（石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町）
 会津若松 会津若松市、大沼郡、耶麻郡のうち磐梯町、猪苗代町、河沼郡

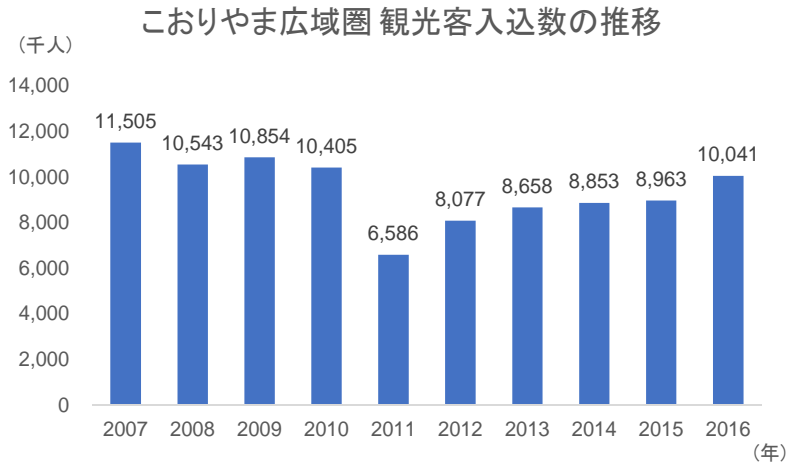
※下線は広域圏構成市町村

(10) 観光

① 観光客入込数

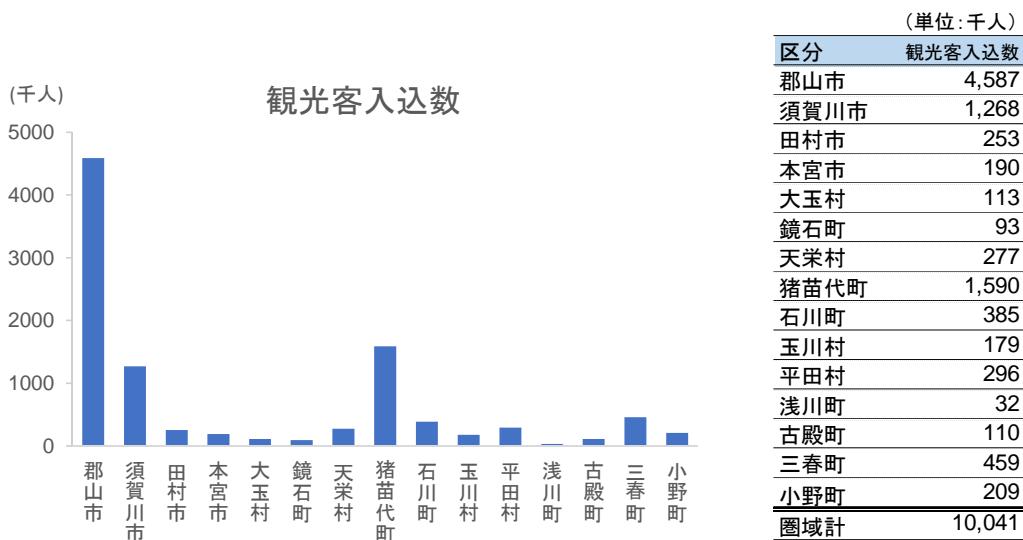
圏域の観光客入込数は1万人程度で推移してきたが、震災の影響により2011年に激減。

その後、回復のテンポは鈍かったものの、2016年には震災前の水準である1万人を超えたところである。



※千人未満切捨て

市町村別では、調査対象集計地点を多く抱える郡山市、猪苗代町、須賀川市において高い数値を示している。また、平田村は2地点と少ない地点数ではあるものの、多くの入込数となっている。



(単位:千人)

区分	観光客入込数
郡山市	4,587
須賀川市	1,268
田村市	253
本宮市	190
大玉村	113
鏡石町	93
天栄村	277
猪苗代町	1,590
石川町	385
玉川村	179
平田村	296
浅川町	32
古殿町	110
三春町	459
小野町	209
圏域計	10,041

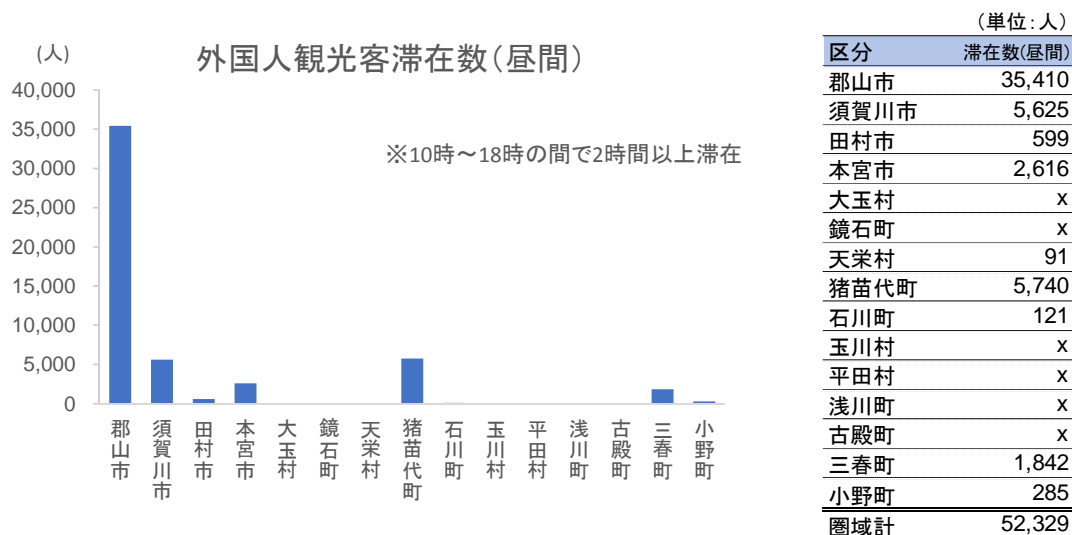
※千人未満切捨て

② 外国人観光客（インバウンド）滞在状況

外国人観光客（インバウンド）の状況については、市町村別の統計データが不足しており、分析が難しい状況にあるが、比較的データを保有する地域経済分析システム「RESAS」の数字を用いて分析を行う。

圏域におけるインバウンドの昼間（10時から18時）の滞在状況については、郡山市、猪苗代町、須賀川市が多い。

また、月別では4～5月と、10月～11月が1年で最も多い状況にある。



出典: RESAS「外国人滞在分析(2017年各月)」(1月～11月までを合算)

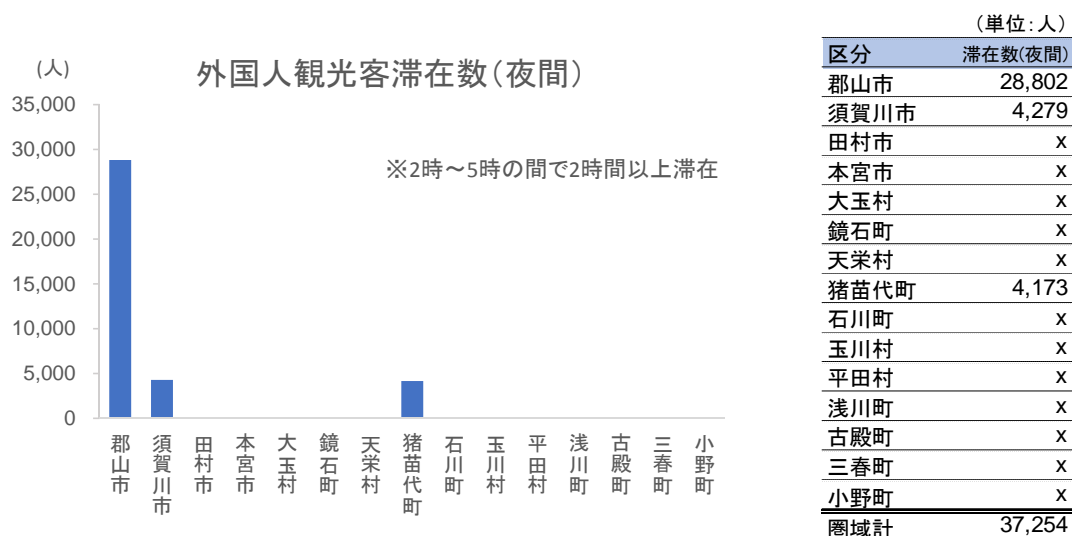
※1 指定地域の昼間帯(10時～18時)に2時間以上滞在した外国人数を日別に算出し、対象期間の日数分を積算。

当該データは、訪日外国人における約400万台の携帯電話の運用データを基に拡大推計。

※2 大玉村、鏡石町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町はデータがないため算出不可(「x」で表示)

インバウンドの夜間（2時から5時）の滞在状況は宿泊場所を示していると想定するが、データが公開されているのは一部の市町村にとどまっている。

公開されている市町村では、宿泊施設を多く抱える郡山市が突出しており、県内各地区へのアクセスの良さなども宿泊先として選択されていると推察される。



出典: RESAS「外国人滞在分析(2017年各月)」(1月～11月までを合算)

※1 指定地域の夜間帯(2時～5時)に2時間以上滞在した外国人数を日別に算出し、対象期間の日数分を積算。

当該データは、訪日外国人における約400万台の携帯電話の運用データを基に拡大推計。

※2 郡山市、須賀川市、猪苗代町以外の市町村はデータがないため算出不可(「x」で表示)。

5 都市機能の集積状況

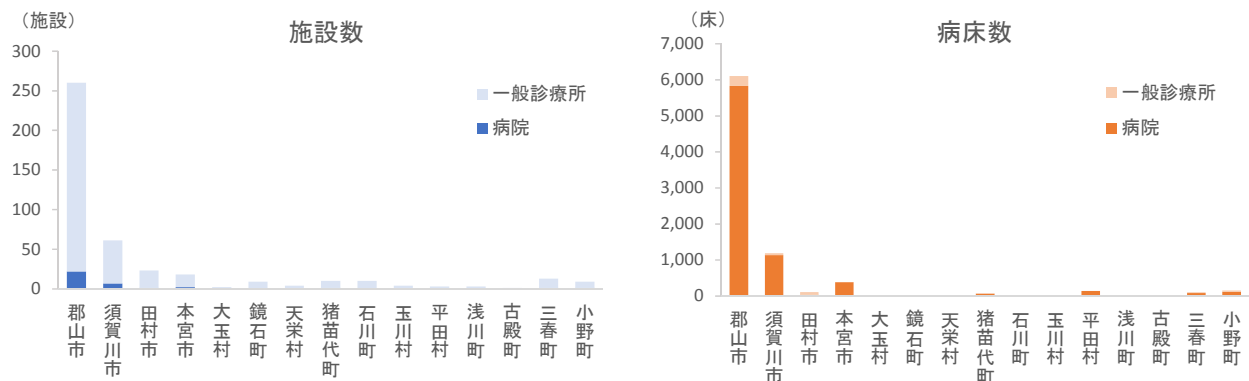
(1) 医療・福祉

① 医療施設及び医師

(単位：施設、床、人)

区分	病院		一般診療所		医師数
	施設数	病床数	施設数	病床数	
郡山市	22	5,829	238	277	818
須賀川市	7	1,134	54	54	119
田村市	1	32	22	76	23
本宮市	2	383	16	3	27
大玉村	0	0	2	0	0
鏡石町	0	0	9	0	8
天栄村	0	0	4	0	3
猪苗代町	1	65	9	20	13
石川町	0	0	10	8	9
玉川村	0	0	4	0	2
平田村	1	142	2	0	7
浅川町	0	0	3	0	1
古殿町	0	0	1	0	0
三春町	1	86	12	19	17
小野町	1	119	8	36	13

出典：福島県「第七次福島県医療計画（平成30年3月）」



② 救急医療施設及び周産期医療施設

区分	市町村名	医療機関
三次救急	郡山市	太田西ノ内病院（救命救急センター）
二次救急	郡山市	寿泉堂総合病院、星総合病院、太田西ノ内病院、今泉西病院、桑野協立病院、太田熱海病院、総合南東北病院
	須賀川市	須賀川病院、公立岩瀬病院、池田記念病院
	本宮市	谷病院
	平田村	ひらた中央病院
二次救急（協力病院）	郡山市	佐藤胃腸科外科病院
	田村市	大方病院
	三春町	町立三春病院
初期救急	郡山市	郡山医師会休日在宅当番医制、郡山市休日・夜間急病センター
	須賀川市	須賀川地方休日夜間急病診療所
	田村市	田村医師会休日在宅当番医制、田村地方夜間診療所
	本宮市	安達医師会休日在宅当番医制
	大玉村	安達医師会休日在宅当番医制
	石川町	石川郡医師会休日在宅当番医制
	玉川村	石川郡医師会休日在宅当番医制
	平田村	石川郡医師会休日在宅当番医制
	浅川町	石川郡医師会休日在宅当番医制
	古殿町	石川郡医師会休日在宅当番医制
	三春町	田村医師会休日在宅当番医制
小野町	田村医師会休日在宅当番医制	
地域周産期星医療センター	郡山市	大田西ノ内病院
周産期医療協力施設	郡山市	寿泉堂総合病院、星総合病院
	須賀川市	公立岩瀬病院

出典：福島県「第七次福島県医療計画（平成30年3月）」

③ 社会福祉施設等

(単位：施設、人)

区分	保護施設		老人福祉施設		障害者支援施設		児童福祉施設	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
郡山市	1	80	8	304	11	610	53	3,604
須賀川市	—	—	4	—	1	60	29	2,045
田村市	1	40	4	30	2	96	8	619
本宮市	—	—	1	19	5	87	8	566
大玉村	—	—	—	—	1	30	1	140
鏡石町	—	—	1	—	—	—	5	322
天栄村	—	—	1	—	—	—	1	60
猪苗代町	—	—	1	—	2	80	7	571
石川町	—	—	2	70	2	100	7	457
玉川村	—	—	—	—	—	—	1	120
平田村	—	—	—	—	—	—	2	160
浅川町	—	—	1	15	—	—	1	80
古殿町	—	—	—	—	—	—	1	160
三春町	—	—	1	80	—	—	5	375
小野町	—	—	—	—	—	—	4	225

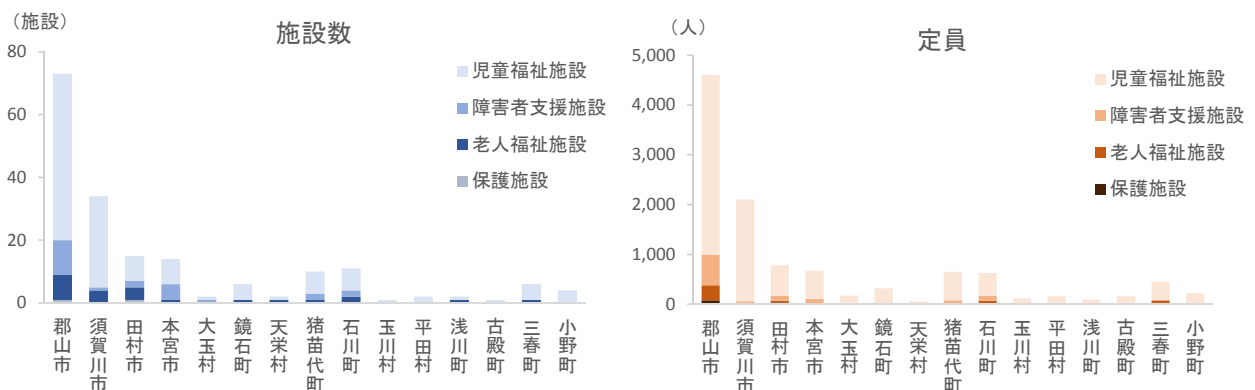
出典：各市町村 HP 等（平成 30 年 3 月末現在）

※保護施設：救護施設、更生施設、授産施設、宿所提供施設

老人福祉施設：養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウス、老人福祉センター

障害者支援施設：障害者支援施設、地域活動支援センター、福祉ホーム

児童福祉施設：母子生活支援施設、保育所、児童養護施設、児童家庭支援センター 等

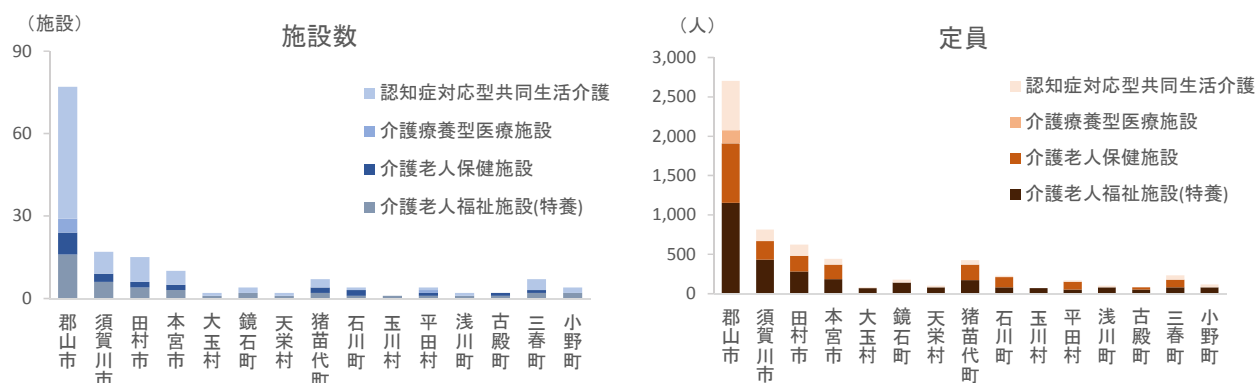


ア 介護保険施設等

(単位：施設、人)

区分	介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)		介護老人保健施設		介護療養型医療施設		認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
郡山市	16	1,154	8	754	5	166	48	630
須賀川市	6	430	3	240	—	—	8	144
田村市	4	280	2	200	—	—	9	144
本宮市	3	185	2	183	—	—	5	72
大玉村	1	70	—	—	—	—	1	9
鏡石町	2	140	—	—	—	—	2	36
天栄村	1	80	—	—	—	—	1	18
猪苗代町	2	170	2	200	—	—	3	54
石川町	1	80	2	129	—	—	1	18
玉川村	1	70	—	—	—	—	—	—
平田村	1	50	1	100	1	—	1	18
浅川町	1	80	—	—	—	—	1	18
古殿町	1	50	1	29	—	—	—	—
三春町	2	79	1	100	—	—	4	54
小野町	2	79	—	—	—	—	2	35

出典：各市町村 HP 等（平成 30 年 3 月末現在）



イ 保育所・幼稚園

(単位：施設、人)

区分	保育所							
	公立保育所		認可保育所		認可外保育所		認定こども園	
	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員	施設数	定員
郡山市	25	1,980	25	1,789	29	1,483	2	190
須賀川市								
田村市								
本宮市								
大玉村								
鏡石町								
天栄村								
猪苗代町			現在調整中					
石川町								
玉川村								
平田村								
浅川町								
古殿町								
三春町								
小野町								

(単位：施設、人)

区分	幼稚園			
	公立幼稚園		私立幼稚園	
	施設数	定員	施設数	定員
郡山市	0	0	33	7,195
須賀川市				
田村市				
本宮市				
大玉村				
鏡石町				
天栄村				
猪苗代町				
石川町				
玉川村				
平田村				
浅川町				
古殿町				
三春町				
小野町				

現在調整中

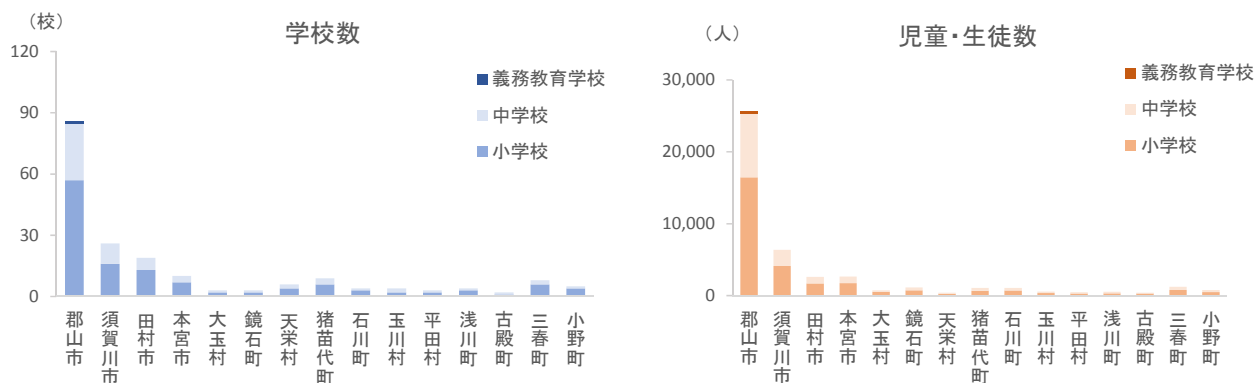
(2) 教育・文化・スポーツ

① 小中学校等

(単位：校、人)

区分	小学校		中学校		義務教育学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数	学校数	児童生徒数
郡山市	57	16,439	28	8,944	1	280
須賀川市	16	4,126	10	2,247	—	—
田村市	13	1,684	6	938	—	—
本宮市	7	1,717	3	920	—	—
大玉村	2	516	1	240	—	—
鏡石町	2	729	1	384	—	—
天栄村	4	250	2	155	—	—
猪苗代町	6	664	3	379	—	—
石川町	3	709	1	360	—	—
玉川村	2	360	2	194	—	—
平田村	2	297	1	169	—	—
浅川町	3	334	1	200	—	—
古殿町	1	277	1	132	—	—
三春町	6	774	2	463	—	—
小野町	4	490	1	285	—	—

出典：平成30年度学校基本調査（平成30年5月1日現在）



② 高等学校・特別支援学校

区分	高等学校
郡山市	<p>【県立】10校：安積高等学校、安積黎明高等学校、郡山東高等学校、郡山商業高等学校、郡山北工業高等学校、郡山高等学校、あさか開成高等学校、湖南高等学校、郡山萌世高等学校、安積高等学校御館校</p> <p>【私立】4校：日本大学東北高等学校、尚志高等学校、帝京安積高等学校、郡山女子大学附属高等学校</p> <p>【特別支援学校】4校：聴覚支援学校、郡山支援学校、あぶくま支援学校、須賀川支援学校郡山校</p>
須賀川市	<p>【県立】4校：須賀川高等学校、須賀川桐陽高等学校、清陵情報高等学校、長沼高等学校</p> <p>【特別支援学校】1校：須賀川支援学校</p>
田村市	<p>【県立】1校：船引高等学校</p> <p>【特別支援学校】2校：たむら支援学校、たむら支援学校（協力校）</p>
本宮市	【県立】1校：本宮高等学校
大玉村	—
鏡石町	【県立】1校：岩瀬農業高等学校
天栄村	—
猪苗代町	<p>【県立】2校：猪苗代高等学校、ふたば未来学園高等学校（協力校）</p> <p>【特別支援学校】1校：猪苗代支援学校</p>
石川町	<p>【県立】1校：石川高等学校</p> <p>【私立】1校：学校法人石川高等学校</p> <p>【特別支援学校】1校：石川支援学校</p>
玉川村	—
平田村	【県立】1校：小野高等学校平田校
浅川町	—
古殿町	—
三春町	【県立】1校：田村高等学校
小野町	【県立】1校：小野高等学校

出典：福島県 HP、各高等学校 HP（平成 30 年 8 月現在）

③ 大学・専修学校

区分	大学・専修学校
郡山市	日本大学工学部、郡山女子大学、奥羽大学、福島医療専門学校、日本調理技術専門学校、東北歯科専門学校、ケイセンビジネス公務員カレッジ、国際医療看護福祉大学校、今泉女子専門学校、i キャリア医療福祉専門学校、郡山健康科学専門学校、郡山ヘアメイクカレッジ、太田看護専門学校、国際ビジネス公務員大学校、国際ビューティファッション・製菓大学校、郡山看護専門学校、ポラリス保健看護学院、国際アート&デザイン大学校、国際情報工科自動車大学校、郡山学院高等専修学校
須賀川市	公立岩瀬病院附属高等看護学院、独立行政法人国立病院機構福島病院附属看護学校、須賀川専門学校
田村市	—
本宮市	—
大玉村	—
鏡石町	—
天栄村	—
猪苗代町	—
石川町	—
玉川村	—
平田村	—
浅川町	—
古殿町	—
三春町	福島県理工専門学校
小野町	—

出典：各大学等 HP 等（平成 30 年 8 月現在）

④ 研究機関・産業支援機関

区分	主な研究機関等
郡山市	国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所、独立行政法人日本貿易振興機構福島貿易情報センター、独立行政法人国際協力機構 JICA 郡山、ふくしま医療機器開発支援センター、福島県農業総合センター、福島県林業研究センター、福島県ハイテクプラザ、公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構、郡山テクノポリスものづくりインキュベーションセンター、郡山市園芸振興センター
須賀川市	福島県ものづくり支援センター
田村市	—
本宮市	—
大玉村	福島県野生生物共生センター
鏡石町	—
天栄村	—
猪苗代町	福島県内水面水産試験場、福島県猪苗代水環境センター、福島県農業総合センター畜産研究所沼尻分場
石川町	—
玉川村	—
平田村	—
浅川町	—
古殿町	—
三春町	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構福島研究開発部門福島研究開発拠点福島環境安全センター、国立研究開発法人国立環境研究所福島支部、福島県環境創造センター
小野町	—

出典：各機関 HP 等（平成 30 年 9 月現在）

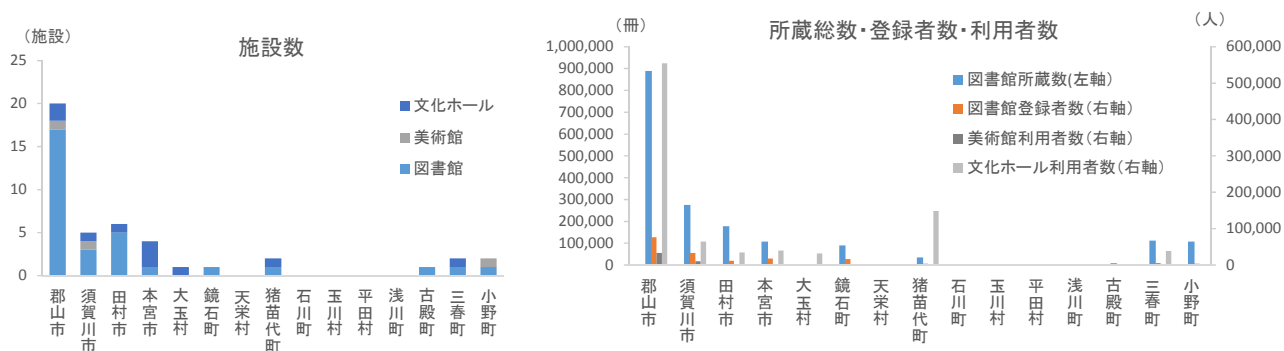
⑤ 文化施設

(単位：施設、冊、人)

区分	図書館		美術館・博物館			文化ホール	
	施設数	所蔵総数	登録者	施設数	利用者数	施設数	利用者数
郡山市	17	889,671	76,182	1	33,313	2	554,559
須賀川市	3	275,071	33,073	1	10,232	1	64,429
田村市	5	178,300	11,404	—	—	1	34,438
本宮市	1	107,633	17,576	—	—	3	40,108
大玉村	—	—	—	—	—	1	31,719
鏡石町	1	90,039	16,558	—	—	—	—
天栄村	—	—	—	—	—	—	—
猪苗代町	1	35,237	3,433	—	—	1	148,704
石川町	—	—	—	—	—	—	—
玉川村	—	—	—	—	—	—	—
平田村	—	—	—	—	—	—	—
浅川町	—	—	—	—	—	—	—
古殿町	1	8,327	394	—	—	—	—
三春町	1	111,719	5,480	—	—	1	38,407
小野町	1	107,007	3,737	1	2,750	—	—

出典：各市町村統計情報等（平成30年3月末現在）

※各市町村の条例に基づき設置される文化施設等



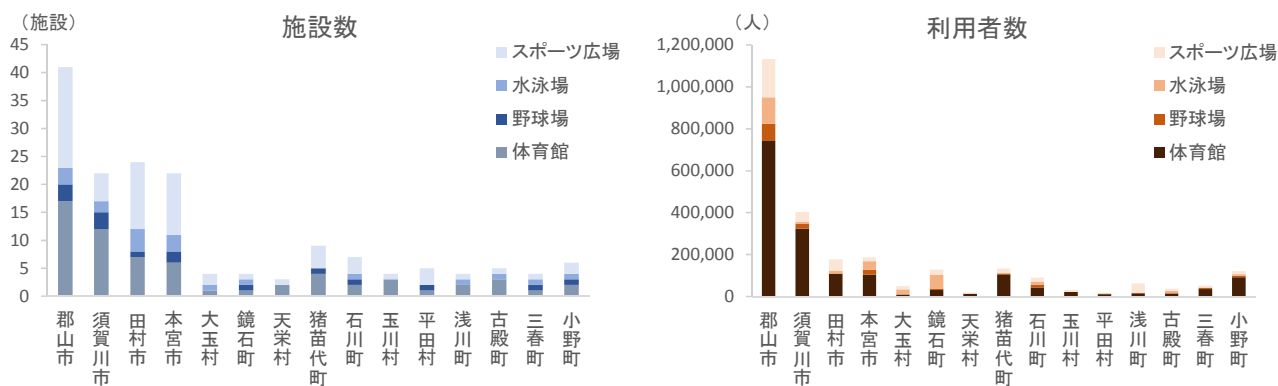
⑥ スポーツ施設

(単位：施設、人)

区分	体育館		野球場		水泳場		スポーツ広場	
	施設数	利用者数	施設数	利用者数	施設数	利用者数	施設数	利用者数
郡山市	17	744,649	3	80,043	3	125,505	18	182,334
須賀川市	12	324,010	3	24,181	2	6,502	5	48,174
田村市	7	108,674	1	463	4	13,584	12	53,855
本宮市	6	103,725	3	26,965	3	40,604	10	15,999
大玉村	1	9,919	—	—	1	23,796	2	15,026
鏡石町	1	31,015	1	6,532	1	66,056	1	24,572
天栄村	2	12,796	—	—	—	—	1	7,088
猪苗代町	4	102,637	1	6,673	—	—	4	23,767
石川町	2	43,190	1	11,684	1	16,315	3	19,449
玉川村	3	22,006	—	—	—	—	1	9,517
平田村	1	10,604	1	2,852	—	—	3	1,146
浅川町	2	15,702	—	—	1	2,096	1	45,044
古殿町	3	14,012	—	—	1	13,064	1	9,992
三春町	1	34,818	1	6,280	1	1,105	1	9,673
小野町	2	91,262	1	6,230	1	8,235	2	14,983

出典：各市町村統計情報等（平成30年3月末現在）

※各市町村の条例に基づき設置される体育施設等



(3) 商業施設 大規模小売店舗

(上段：店舗面積 1,000 m²以上 10,000 m²未満、下段：10,000 m²以上)

区分	店舗名
郡山市	<p>三丹ビル・SIビル、ヨークベニマル希望ヶ丘店、菊一ビル、郡山中町ビル、かねとビル、トステムビバ安積店、ヨークベニマル安積町店、やまのいカルチャーセンター、トステムビバ大槻店、仙台ターミナルビル郡山店、トライアルマート喜久田店、高橋ビル、アメ横郡山店、ゼビオ郡山本店、トステムビバ桑野店、カワチ薬品城清水店、JR郡山市民市場、台新ショッピングセンター、ディスカウントストアトライアル郡山安積バイパス店、ブックオフ郡山安積店、カインズホーム大槻店、G・O・1郡山並木店、カワチ薬品安積店、ゲオ郡山城清水店、コジマNEW郡山店、ダイソー郡山島店、カワチ薬品富田店、万SAI堂郡山店、G.L.O郡山店、リビングステージ扇屋、リオン・ドール郡山東店、サンショー横塚店、東京インテリア家具郡山店、ダイユーエイト三春街道店、ドッポ郡山本店、ヨークベニマル郡山荒井店、岩瀬書店富久山店、ハローズ郡山桑野店、ヨークベニマル郡山横塚店、カワチ薬品大槻店、建デポ郡山桑野店、みどり書房桑野店、ヨークベニマルコスモス通り店、ファッションセンターしまむら富田店、ダイユーエイト安積店、ヨークタウン八山田、MOLTI、ヨークベニマル新小原田店、ヨークタウン大槻、ケイヨーデーツー郡山安積店、小原田ファッションモール、郡山駅東ショッピングセンター、カワチ薬品富久山店、サンキ郡山店、ヤマダ電機テックランド郡山北店、ヨークタウン片平、ニトリ郡山店、ヨークタウン郡山堤下、ヨークベニマル日和田店、若葉ファッションモール、ヤマダ電機テックランド郡山南店、ファッションセンターしまむらコスモス通り店、ダイユーエイト郡山インター店、ヨークベニマル方八町店、ザ・ビック郡山喜久田店、ダイユーエイト郡山横塚店、ヨークタウン金屋</p>
	<p>ATi郡山、イトーヨーカドー郡山店、ショッピングモールフェスタ、オリエントパーク日和田、イオンタウン郡山ショッピングセンター、カインズホーム郡山富田店、中町再開発ビル、フェスタパワー、ザ・モール郡山</p>
須賀川市	<p>ヨークベニマル須賀川西店、カワチ薬品須賀川店、リオン・ドール須賀川南店、ダイユーエイト須賀川西店、いちい須賀川東店、リオン・ドール須賀川東店、カワチ薬品須賀川東店、協同組合ながめまショッピングパーク、ケースデンキ須賀川パワフル館、フレスポ須賀川、サンデー須賀川店</p> <p>イオンタウン須賀川、メガステージ須賀川</p>

区分	店舗名
田村市	シミズストア船引パーク店、ダイユーエイト船引店、リオン・ドールガーデン船引、メガステージ田村、ケーズデンキ船引店
	—
本宮市	シミズストア本宮店、コメリ本宮店、コメリ本宮仁井田店、ウエルシア福島本宮店、ザ・ビッグ本宮店、ヨークベニマル新本宮館町店、リオン・ドール本宮店、ダイソーリオン・ドール本宮店、TSUTAYA 本宮店、ヤマダ電機テックランド本宮店、ファッションセンターしまむら本宮店、農家の店さんさん
	エイトタウン本宮
大玉村	—
	PLANT-5 大玉店
鏡石町	いちい鏡石店、リオン・ドール鏡石店
	イオンスーパーセンター鏡石店
天栄村	—
	—
猪苗代町	ヨークベニマル猪苗代店、リオン・ドール猪苗代店、カワチ薬品猪苗代店、ダイユーエイト猪苗代店、コメリ猪苗代店
	—
石川町	カワチ薬品石川店、リオン・ドール石川店、ビバホーム石川店、ツルハドラッグ石川店、ダイユーエイト石川店
	メガステージ石川
玉川村	—
	—
平田村	—
	—
浅川町	—
	—
古殿町	—
	—
三春町	ヨークベニマル三春店
	—
小野町	小野町ショッピングセンター、おのショッピングプラザ
	—

出典：各市町村統計情報（平成 30 年 3 月現在）

※大規模小売店舗立地法の届出については、店舗名称が変更となってもその時点で変更届出の必要がない場合があるため、実際の店舗と異なります。

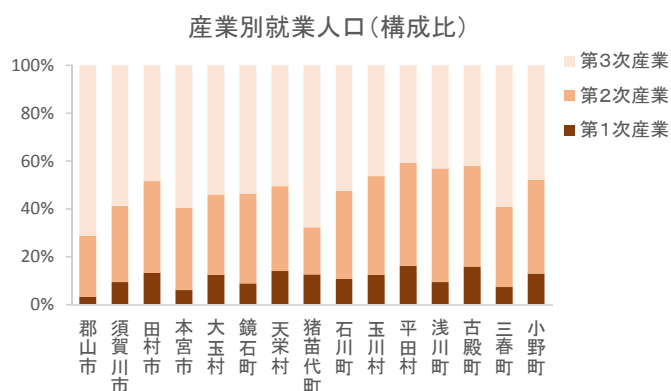
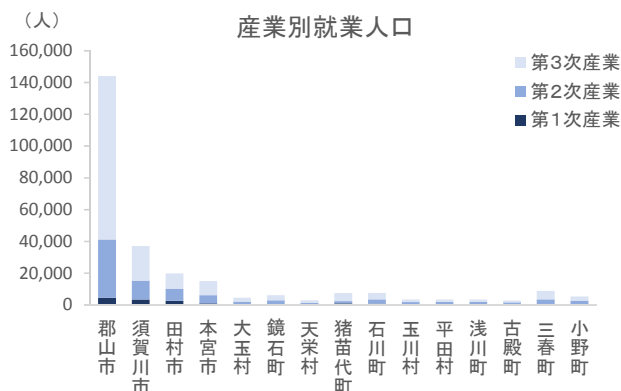
(4) 産業別就業人口と構成比

(単位：人)

区分	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
	就業人口	構成比	就業人口	構成比	就業人口	構成比
郡山市	4,550	3.2%	36,734	25.5%	102,817	71.4%
須賀川市	3,472	9.4%	11,813	31.9%	21,717	58.7%
田村市	2,616	13.2%	7,659	38.5%	9,603	48.3%
本宮市	920	6.1%	5,180	34.4%	8,952	59.5%
大玉村	566	12.4%	1,537	33.6%	2,469	54.0%
鏡石町	552	8.9%	2,321	37.5%	3,318	53.6%
天栄村	403	14.0%	1,018	35.5%	1,450	50.5%
猪苗代町	923	12.6%	1,446	19.7%	4,984	67.8%
石川町	824	10.8%	2,816	36.8%	4,021	52.5%
玉川村	424	12.4%	1,416	41.3%	1,592	46.4%
平田村	548	16.2%	1,464	43.1%	1,381	40.7%
浅川町	315	9.4%	1,585	47.5%	1,437	43.1%
古殿町	440	15.9%	1,164	42.1%	1,158	41.9%
三春町	658	7.4%	2,981	33.4%	5,284	59.2%
小野町	699	12.9%	2,124	39.3%	2,581	47.8%

出典：総務省「国勢調査（平成27年度）」

※構成比は四捨五入のため、合計が100.0%にならない場合があります。



(5) 交通

① 交通インフラの状況

区分	主な路線等
空港	福島空港（須賀川市、玉川村）
高速道路	東北縦貫自動車道弘前線（郡山 JCT、郡山 IC、郡山南 IC、本宮 IC、須賀川 IC、鏡石 SIC）、東北横断自動車道いわき新潟線（郡山 JCT、郡山東 IC、磐梯熱海 IC、船引三春 IC、小野 IC、猪苗代磐梯高原 IC）
地域高規格道路	郡山西環状道路（あさか野バイパス）、あぶくま高原道路（玉川 IC、福島空港 IC、石川母畑 IC、平田西 IC、平田 IC、小野 IC）
JR 東日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北新幹線（郡山駅） ・ 東北本線（郡山駅、日和田駅、安積永盛駅、五百川駅、本宮駅、須賀川駅、鏡石駅） ・ 磐越東線（郡山駅、舞木駅、三春駅、要田駅、船引駅、磐城常葉駅、大越駅、菅谷駅、神俣駅、小野新町駅、夏井駅） ・ 磐越西線（郡山駅、郡山富田駅、喜久田駅、安子ヶ島駅、磐梯熱海駅、中山宿駅、上戸駅、（臨）猪苗代湖畔駅、関都駅、川桁駅、猪苗代駅、翁島駅） ・ 水郡線（郡山駅、安積永盛駅、磐城守山駅、谷田川駅、小塩江駅、川東駅、泉郷駅、川辺沖駅、野木沢駅、磐城石川駅、里白石駅、磐城浅川駅）
路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島交通（郡山市、須賀川市、田村市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、古殿町、平田村、浅川町、三春町、小野町） ・ 新常磐交通（田村市、小野町） ・ 会津乗合自動車（郡山市、猪苗代町） ・ 磐梯東都バス（猪苗代町）
巡回バス等	郡山市（市内循環バス）、須賀川市（市内循環バス）、本宮市（市街地巡回バス、広域生活バス）、大玉村（広域生活バス）、三春町（町営バス）
その他	リムジンバス（郡山駅－福島空港間）

出典：福島空港ビル株式会社 HP、東日本旅客鉄道株式会社 HP、福島交通株式会社 HP、各市町村 HP 等（平成 30 年 3 月末現在）

② 地域公共交通（郡山市との所要時間）

区分	主な公共交通機関による所要時間等
須賀川市	須賀川駅＝(JR 東北本線：10分)＝郡山駅 運賃：240円
田村市	船引駅＝(JR 磐越東線：28分)＝郡山駅 運賃：500円
本宮市	本宮駅＝(JR 東北本線：13分)＝郡山駅 運賃：240円
大玉村	農協前＝(広域生活バス：12分)＝本宮駅 運賃：200円 本宮駅＝(JR 東北本線：13分)＝郡山駅 運賃：240円
鏡石町	鏡石駅＝(JR 東北本線：15分)＝郡山駅 運賃：320円
天栄村	天栄村役場＝(福島交通バス：26分)＝鏡石駅 運賃：610円 鏡石駅＝(JR 東北本線：15分)＝郡山駅 運賃：320円
猪苗代町	猪苗代駅＝(JR 磐越西線：37分)＝郡山駅 運賃：670円
石川町	磐城石川駅＝(JR 水郡線：43分)＝郡山駅 運賃：760円
玉川村	泉郷駅＝(JR 水郡線：30分)＝郡山駅 運賃：500円
平田村	上蓬田＝(福島交通バス：60分)＝郡山駅 運賃：1,370円
浅川町	磐城浅川駅＝(JR 水郡線：60分)＝郡山駅 運賃：840円
古殿町	古殿役場＝(福島交通バス：35分)＝石川駅前 運賃：870円 磐城石川駅＝(JR 水郡線：47分)＝郡山駅 運賃：760円
三春町	三春駅＝(JR 磐越東線：13分)＝郡山駅 運賃：240円
小野町	小野新町駅＝(JR 磐越東線：52分)＝郡山駅 運賃：840円

出典：東日本旅客鉄道株式会社 HP、福島交通株式会社 HP、各市町村 HP（平成 30 年 8 月現在）



③ 各鉄道の各駅別年間乗車人員

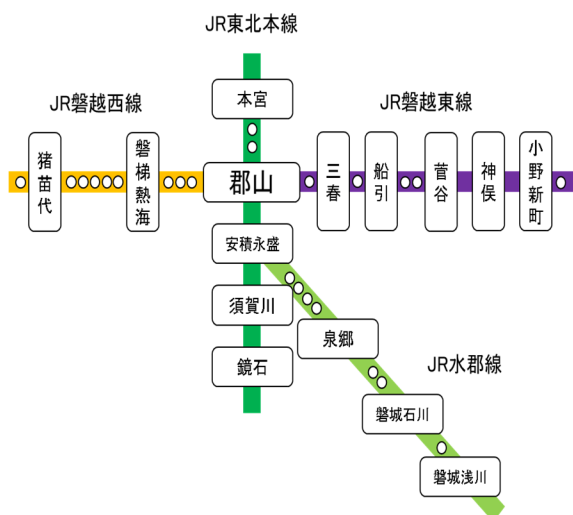
(単位：千人)

路線名	駅名	乗車人員
東北本線	鏡石	321
	須賀川	842
	安積永盛	860
	郡山	6,610
	本宮	660
水郡線	磐城浅川	62
	磐城石川	198
	泉郷	42
磐越東線	小野新町	149
	神俣	63
	菅谷	32
	船引	303
	三春	331
磐越西線	磐梯熱海	96
	猪苗代	218

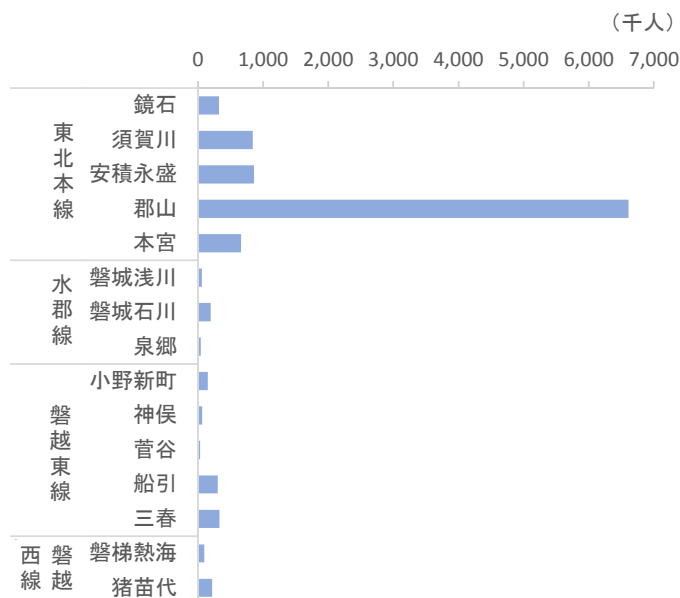
出典：福島県統計年鑑（2018年版）、東日本旅客鉄道株式会社 HP

※無人駅を除く

鉄道路線図(概略図)



各駅別年間乗車人員



(6) 国の機関等

区分	主な機関等
郡山市	防衛省東北防衛局郡山防衛事務所、防衛省陸上自衛隊東北方面隊第6師団郡山駐屯地、防衛省自衛隊福島地方協力本部郡山地区援護センター、法務省福島地方法務局郡山支局、法務省仙台入国管理局郡山出張所、財務省国税庁仙台国税局郡山税務署、厚生労働省福島労働局郡山労働基準監督署、厚生労働省福島労働局郡山公共職業安定所、国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所、国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所郡山出張所、農林水産省東北農政局福島地域センター郡山庁舎、農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署郡山森林事務所、福島地方検察庁郡山支部、福島地方裁判所郡山支部、日本年金機構郡山事務所
須賀川市	厚生労働省福島労働局須賀川労働基準監督署、厚生労働省福島労働局須賀川公共職業安定所、厚生労働省独立行政法人国立病院機構福島病院、財務省国税庁仙台国税局須賀川税務署、法務省福島地方法務局須賀川証明サービスセンター
田村市	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署常葉森林事務所・都路森林事務所
本宮市	—
大玉村	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署玉ノ井森林事務所
鏡石町	—
天栄村	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署白河支所大平森林事務所、農林水産省東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所羽鳥ダム管理所
猪苗代町	国土交通省猪苗代車両検測所、農林水産省林野庁関東森林管理局会津森林管理署猪苗代森林事務所
石川町	—
玉川村	財務省横浜税関小名浜税関支署福島空港出張所、国土交通省東京航空局福島空港出張所、国土交通省仙台航空測候所福島空港出張所
平田村	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署白河支署蓬田森林事務所
浅川町	—
古殿町	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署白河支署大原森林事務所・横川森林事務所
三春町	国土交通省三春ダム管理所、日本原子力研究開発機構福島研究開発部門、国立研究開発法人国立環境研究所福島支部
小野町	農林水産省林野庁関東森林管理局福島森林管理署小野町森林事務所

出典：各省庁等 HP 等（平成 30 年 11 月 1 日現在）

5 財政状況（平成 29 年度決算）

（1）財政指標等

（単位：千円）

区分	標準財政規模	財政力指数	経常収支比率	地方債残高
郡山市	67,407,452	0.80	90.6%	85,192,914
須賀川市	18,675,936	0.59	91.9%	37,476,955
田村市	13,688,932	0.33	91.2%	23,952,449
本宮市	8,179,525	0.63	86.8%	14,999,287
大玉村	2,761,646	0.37	88.2%	4,652,058
鏡石町	3,289,726	0.57	84.9%	5,401,418
天栄村	2,641,601	0.31	85.7%	3,785,208
猪苗代町	5,230,901	0.39	89.4%	9,147,978
石川町	4,437,633	0.43	85.4%	6,450,979
玉川村	2,326,841	0.36	88.0%	3,414,484
平田村	2,651,917	0.27	84.7%	7,316,940
浅川町	2,176,415	0.35	83.2%	3,123,082
古殿町	2,627,965	0.23	89.6%	5,353,897
三春町	4,783,373	0.42	91.3%	7,131,998
小野町	3,291,975	0.34	88.6%	5,073,450

出展：福島県市町村財政課 平成 29 年度市町村普通会計決算の概要（確報）

※標準財政規模：その団体が合理的かつ妥当な水準で行政を行うための標準的な一般財源の規模を表す指標。

※財政力指数：標準的な行政需要に自主財源でどれだけ対応できるかを表す指標。

※経常収支比率：地方税、普通交付税のように用途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される財源のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年経常的に支出される経費に充当されたものが占める割合で、財政構造の弾力性を表す指標。

(2) 健全化判断比率

区分	健全化判断比率					
	実質赤字比率 (財政再生基準 20%)		連結実質赤字比率 (財政再生基準 30%)		実質公債費比率 (財政再生基準 35%)	将来負担比率 (早期健全化基準 350%)
	比率	早期健全化基準	比率	早期健全化基準	3か年平均	比率
郡山市	—	11.25	—	16.25	5.6	—
須賀川市	—	12.56	—	17.56	6.3	35.3
田村市	—	12.88	—	17.88	7.5	30.5
本宮市	—	13.70	—	18.70	8.3	77.4
大玉村	—	15.00	—	20.00	6.8	17.7
鏡石町	—	15.00	—	20.00	9.3	39.4
天栄村	—	15.00	—	20.00	8.6	17.6
猪苗代町	—	14.85	—	20.00	9.4	66.4
石川町	—	15.00	—	20.00	5.3	18.6
玉川村	—	15.00	—	20.00	8.7	39.8
平田村	—	15.00	—	20.00	8.9	98.5
浅川町	—	15.00	—	20.00	7.7	22.1
古殿町	—	15.00	—	20.00	7.4	—
三春町	—	15.00	—	20.00	7.6	18.7
小野町	—	15.00	—	20.00	6.7	—

出展：福島県市町村財政課 平成29年度決算に基づく健全化判断比率等の概要（確報）

※実質赤字比率：歳出に対する歳入の不足額を、市町村の一般財源の標準的な規模を表す「標準財政規模」で除したものの。

※連結実質赤字比率：市町村すべての会計の赤字額と黒字額を合算し、歳出に対する歳入の資金不足額を標準財政規模で除したものの。

※実質公債費比率：義務的に支出しなければならない経費である公債費や公債費に準じた経費の額を標準財政規模を基本とした額で除したものの3か年の平均値。

※将来負担比率：市町村が発行した地方債残高のほか、土地開発公社や市町村が損失補償した第三セクターの債務などを標準財政規模を基本とした額で除したものの。

※資金不足比率：一般会計等における実質赤字に相当する公営企業会計の「資金不足額」を公営企業の事業規模で除したものの。

(3) 財務状況 (平成 28 年度決算)

区分	貸借対照表			行政コスト計算書	
	資産の部	負債の部	純資産の部	経常費用	経常収益
郡山市	608,375,302	106,283,884	502,091,418	103,781,190	3,663,323
須賀川市	172,146,458	41,189,215	130,957,243	29,562,630	809,434
田村市	112,263,724	29,807,670	82,456,054	18,879,940	532,226
本宮市	138,714,000	16,136,000	122,577,000	23,443,000	363,000
大玉村					
鏡石町	24,981,363	6,204,156	18,777,208	6,082,217	100,455
天栄村					
猪苗代町	44,823,072	10,664,978	34,158,094	7,697,444	396,682
石川町	27,659,887	7,620,586	20,039,301	6,275,864	145,790
玉川村					
平田村					
浅川町					
古殿町					
三春町	42,913,081	8,999,633	33,913,448	9,442,854	235,363
小野町	30,015,235	5,762,700	24,252,535	4,890,105	119,832

出典：各市町村 HP

※各数値は、総務省が示す「統一的な基準」により各市町村が作成した財務諸表による。

※財務書類の対象会計の範囲は、各市町村の一般会計等。

Ⅲ 圏域の将来像と目標

1 こおりやま広域圏の将来像

資料 3 参照

2 将来の人口目標

資料 3 参照

IV 連携協約に基づき推進する具体的取組及び成果指標

1 具体的取組

(1) 圏域全体の経済成長のけん引

資料4－1参照

(2) 高次の都市機能の集積・強化

資料4－1参照

(3) 圏域全体の生活関機能サービスの向上

資料 4 - 1 参照

2 成果指標 (KPI)

現在調整中

